



FilePort

Version 1.9.2

User's Manual
取扱説明書

2011 年 5 月 第 2 版



目次

はじめに	5
操作の流れ	6
第 1 章 インストール	7
FilePort インストール前の準備	8
FilePort のインストール	9
第 2 章 FilePort の起動と基本的な使い方	13
FilePort の起動	14
ライセンスキーの入力	14
試用版をお使いで正規のライセンスキーを入力する場合	14
FilePort の画面	15
基本的な使い方	16
初期画面	16
FTP サーバーへの接続設定	16
取得ファイルリストの設定①	17
取得ファイルリストの設定②	18
ダウンロード	19
自動ダウンロード	20
自動起動	20
第 3 章 FilePort の設定	21
接続	23
ファイル	24
FtpViewer	26
基本設定	27
文字コード変換	29
ファイルの検証	30
第 4 章 FilePort の機能	33
新規設定（新しい設定を作る）	34
設定を切り替える	35
設定を削除する	35
ショートカットの作成	36
アップロード	37
FtpViewer の機能	38
ファイル（ディレクトリ）の削除	38
ファイル（ディレクトリ）の名前変更	38
ディレクトリ作成	39

第 5 章 MD5 ファイルの生成	41
MD5 ファイルについて	42
FtpViewer を使う	43
CreateMD5 を使う	45
PHP スクリプトで生成する	47
 第 6 章 時刻指定の自動ダウンロード	 49
時刻指定の自動ダウンロードについて	50
FilePort の設定	50
設定を一時的に無効（有効）にする	51
ショートカットのプロパティをコピー	51
タスク スケジューラへの登録（Windows Vista / 7）	53
タスクへの登録（Windows XP）	58
 第 7 章 Windows の設定	 63
拡張子が見えるようにする	64
Windows XP の場合	64
Windows Vista / 7 の場合	65

はじめに

FilePort をお買い上げありがとうございます。

FilePort は、FTP サーバーからファイルを取得するためのソフトウェアです。デジタルサイネージの自動更新など様々な用途にご利用いただけます。

FilePort には、ファイルのハッシュ値を MD5 にて出力するソフトウェア（CreateMD5）が附属しています。このソフトウェアについても、当マニュアルを参照ください。

※ FilePort 1.9 から FTP サーバーへファイルを手動でアップロードする機能が備わりました。アップロード時には自動的にファイルのハッシュ値が生成されます。プロキシサーバーを利用している場合は、アップロード機能は使用できませんのでご注意ください。

【FilePort1.9.2.0 からの機能】

- ☐ Microsoft Internet Information Service (IIS) のディレクトリ表示スタイルの MS-DOS 形式に対応 **新機能**
- ☐ プロキシサーバーを経由したダウンロードに対応（アップロードは未対応） **新機能**

＜対応プロキシサーバー＞ ※ http プロキシのみ対応

Squid
DeleGate
FreeProxy
BlackJumboDog

http プロキシは、そのサーバー毎にディレクトリ表示形式が異なりますので、上記サーバーであってもバージョンにより表示やダウンロードができないこともあります。

- ☐ 拡張子を付加するオプション **新機能**

ダウンロードしたファイルに拡張子を付加することができます。SmartSignage のように自動更新機能を有するソフトウェアと併用するときには有用な機能です。（リストにデフォルトで登録されている "_fdu" 拡張子は、SmartSignage で認識される更新ファイルです。）

【Windows 7 と 64 ビットについて】

FilePort は Windows 7 の 64 ビット版での動作確認を行なっています。

x86 と記述されている場合は 32 ビットを意味します。x64 と記述されている場合は、64 ビットを意味します。

FilePort のインストーラは 32 ビット版と 64 ビット版に分かれていますが、64 ビット Windows に 32 ビット版インストーラでインストールしても、実際には 64 ビットで動作します。64 ビット Windows においては、デフォルトのインストール先が、"Program Files(x86)" になるか、"Program Files" になるかの違いです。

【重要】

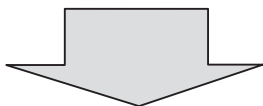
FilePort はユーザー権限で動作します。あるユーザーで設定した設定は他のユーザーでログオンした際に利用できません。FilePort を自動実行させるときは、いつも同じユーザーでログオンするようにしてください。

操作の流れ

FilePort を使ってファイルをダウンロードするための大まかな流れを示します。

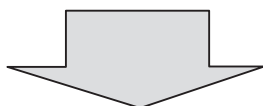
接続設定

ダウンロードファイルを格納している FTP サーバーへ接続するための設定を行います。



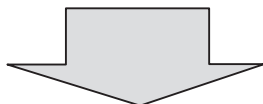
取得ファイルの登録

ダウンロードするファイル名（パス）を登録します。FtpViewer からドラッグ＆ドロップで登録することもできます。取得対象をディレクトリにすることも可能です。取得オプションの設定も行ないます。



その他の設定

自動ダウンロード設定やファイル検証機能の設定などオプションの設定を行ないます。

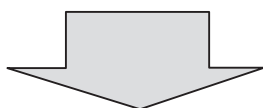


ダウンロード

自動ダウンロードに設定した場合は、定期的にダウンロードが実行されます。手動で「開始」ボタンを押すことによってダウンロードを実行させることもできます。

新規設定の作成

新規設定を作成することにより、複数の設定を切り替える、または同時に動作させることができます。



ショートカットの作成

ショートカット作成機能を使って、設定を起動時に適用させることができます。ログオン時に自動起動させることもできます。

第 1 章 インストール

第 1 章 インストール

FilePort インストール前の準備

【重要】インストールは必ず管理者権限のユーザーで行なってください。

FilePort の動作には次のソフトウェアが必要となります。インストールされていない場合は、FilePort をインストールする前に別途インストールを済ませておいてください。

- Microsoft .NET Framework 2.0 以上（自動インストール対象）

".NET Framework 2.0" は、FilePort のインストーラによって自動インストールすることが可能です。（インターネット接続時のみ）また、Windows Vista / 7 では .NET Framework 3.0 / 3.5 が初期状態でインストール済みですので、別途 .NET Framework 2.0 をインストールする必要はありません。

<インターネット接続が不可の場合>

インターネット接続ができない環境では、CD-ROM に収録されたインストーラを使用してインストールすることもできます。

CD-ROM で "Support Software" というフォルダの中にインストーラが入っています。

【Microsoft .NET Framework 2.0】（Windows Vista / 7 は最初からインストール済み）

"dotnetfx" というフォルダの中

- ① dotnetfx.exe をインストール後
- ② langpack.exe をインストールする

(WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe と instmsia.exe は通常必要ありません)

FilePort のインストール

インストールの前に、インターネットへ接続されているかどうかを確認してください。接続できない場合は、Microsoft .NET Framework 2.0（以下 .NET Framework と記載）を CD-ROM からインストールしておいてください。※ Windows Vista / 7 は .NET Framework が標準でインストールされているため、インターネットへの接続環境は必要ありません。

- (1) CD-ROM 中の "Setup" というフォルダを開いてください。その中に "x86" と "x64" というフォルダがあります。それぞれ、32 ビット版と 64 ビット版のインストーラが収録されています。ご利用の Windows によって適切な方を選んでください。"x86" フォルダの中には、"setup.exe" と "Setup_x86.msi" があります。"64" フォルダの中には "setup.exe" と "Setup_x64.msi" があります。いずれの場合も "setup.exe" を実行してください。

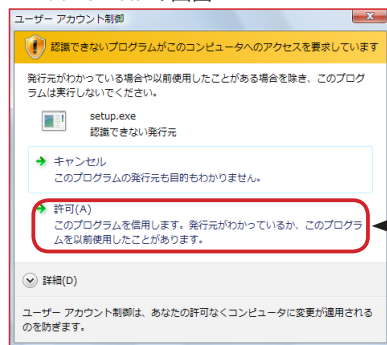


※もし、.exe や .msi という拡張子が見えない場合は、「第7章 Windows の設定」－「拡張子が見えるようにする」を参考に Windows の設定を行なうことをお勧めします。

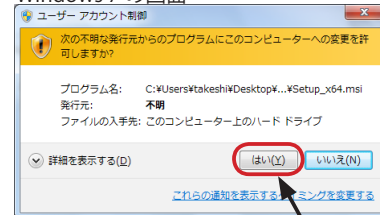
※ 64 ビット版の Windows に 32 ビット版の FilePort をインストールすることは可能です。32 ビット版と 64 ビット版の違いは、デフォルトのインストール先が "Program Files(x86)..." になるか、"Program Files..." になるかという点です。FilePort は、32 ビット版をインストールしても、64 ビット版 Windows においては 64 ビットで動作します。

- (2) "setup.exe" を実行します。Windows Vista / 7 を使用している場合は、インストールの途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示されるので、「許可」（または「はい」）をクリックします。

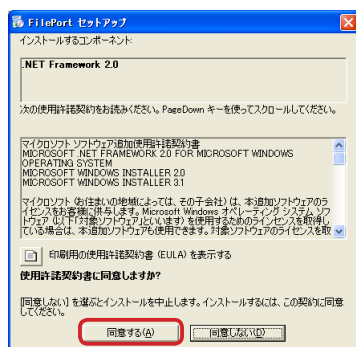
Windows Vista の画面



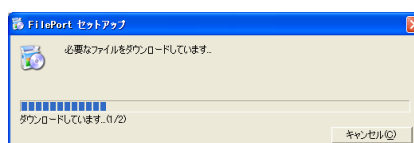
Windows 7 の画面



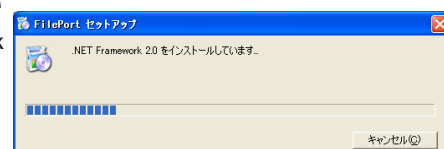
- (3) もし、.NET Framework がインストールされていない場合は、自動的にインターネットを介してインストーラをダウンロードし、インストールを開始します。画面に従って、.NET Framework をインストールしてください。インストールが完了すると、FilePort のインストール開始画面が表示されます。



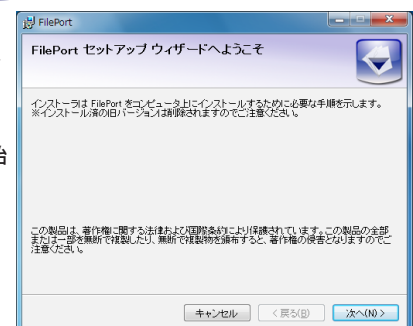
「同意する」をクリック



.NET Framework
インストール中

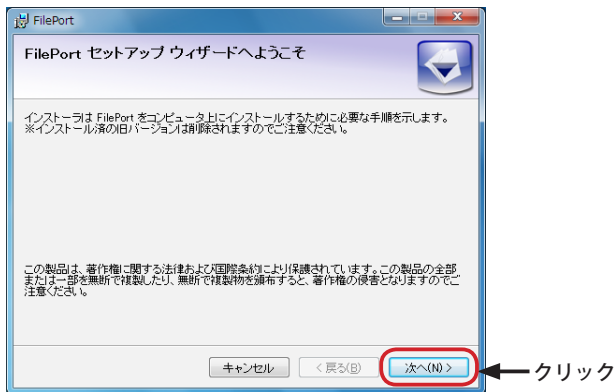


.NET Framework
インストール完了
&
FilePort
インストール開始

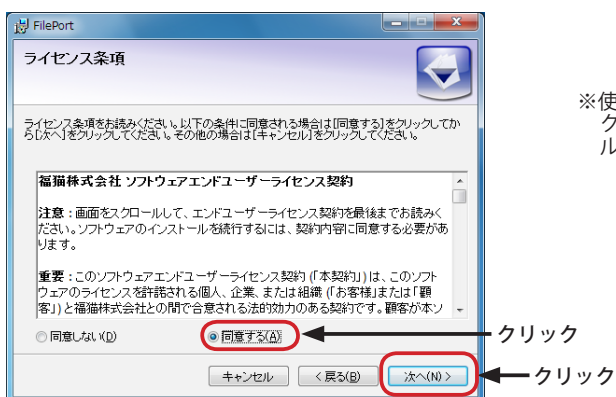


FilePort のインストール

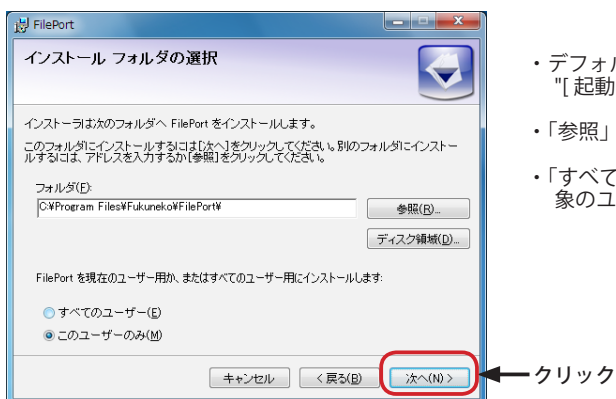
(4) 「FilePort セットアップ ウィザード」が表示されたら、「次へ」ボタンをクリックします。



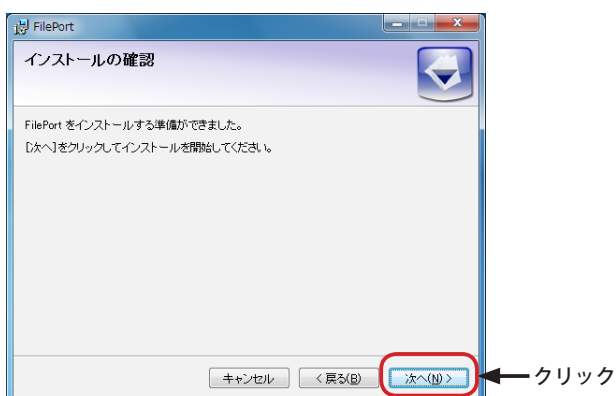
(5) 「使用許諾契約書」が表示されたら、「同意する」ラジオボタンをクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。



(6) 「インストールフォルダの選択」が表示されたら、フォルダを確認し「次へ」ボタンをクリックします。



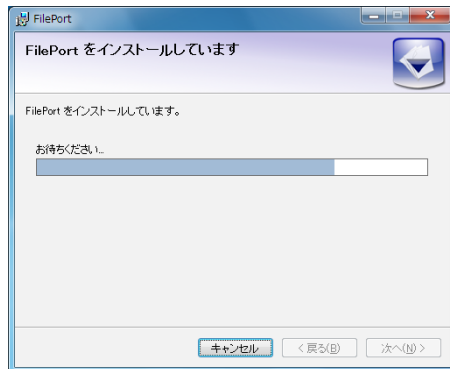
(7) 「インストールの確認」が表示されたら「次へ」ボタンをクリックしてください。



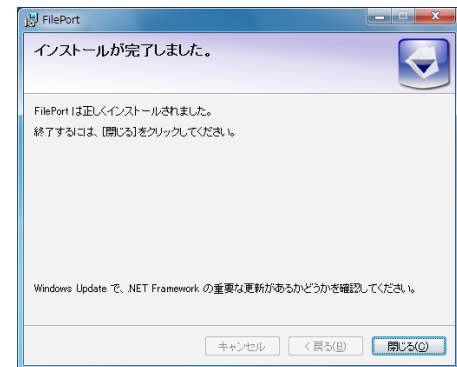
FilePort のインストール

(8) 「FilePort をインストールしています」が表示され、しばらくすると「インストールが完了しました」が表示されます。「閉じる」をクリックしてください。エディタのインストールは完了です。

インストール中

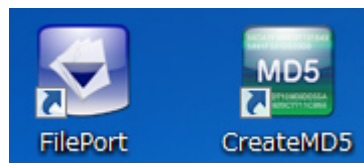


インストール完了



インストールが完了すると、デスクトップに "FilePort" というショートカットアイコンが作成されます。「スタート」ボタンのメニューは「すべてのプログラム」－「Fukuneko」－「FilePort」－「FilePort」に登録されます。

デスクトップのショートカットアイコン

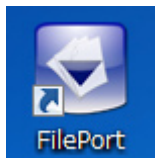


※ FilePort と同時に "CreateMD5" というアプリケーションもインストールされます。

第 2 章 FilePort の起動と基本的な使い方

FilePort の起動

FilePort の起動はデスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックするか、スタートボタンから「すべてのプログラム」－「Fukuneko」－「FilePort」－「FilePort」を選びます。



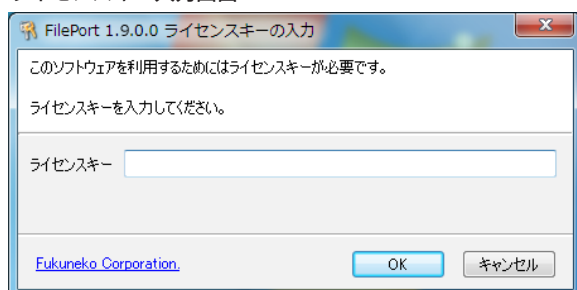
デスクトップのショートカットアイコン

ライセンスキーの入力

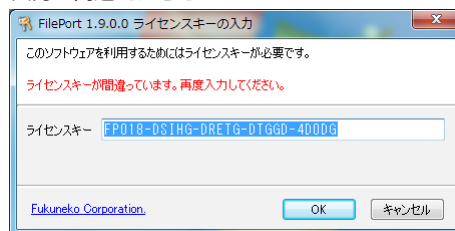
初めて FilePort を起動すると「ライセンスキーの入力」画面が表示されます。正しいライセンスキーを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

入力したライセンスキーが正しくない場合は、「ライセンスキーが間違っています。再度入力してください。」と表示されますので、もう一度入力してください。正しいライセンスキーが入力されると、FilePort が起動します。一度正しいライセンスキーが入力されると、次に起動するときは「ライセンスキーの入力」画面は表示されません。

ライセンスキー入力画面



入力を間違えたとき



FilePort のライセンスキー例（実際には使用できません）

FP018-F8JP9-3G2LR-U5NAC-DOQH7

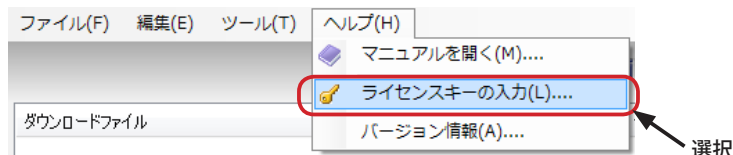
↑
FP から始まる 0 を含む 3 桁の数字 5 桁の英数字

※試用版のライセンスキーは FPTRI から始まります。

試用版をお使いで正規のライセンスキーを入力する場合

試用版をお使いの場合は、試用開始から 30 日を経過すると自動的に正規ライセンスキーの入力を促す画面が表示されます。

試用期間満了前に正規のライセンスキーを入力するためには、メニューから「ヘルプ」－「ライセンスキーの入力」を選んでください。

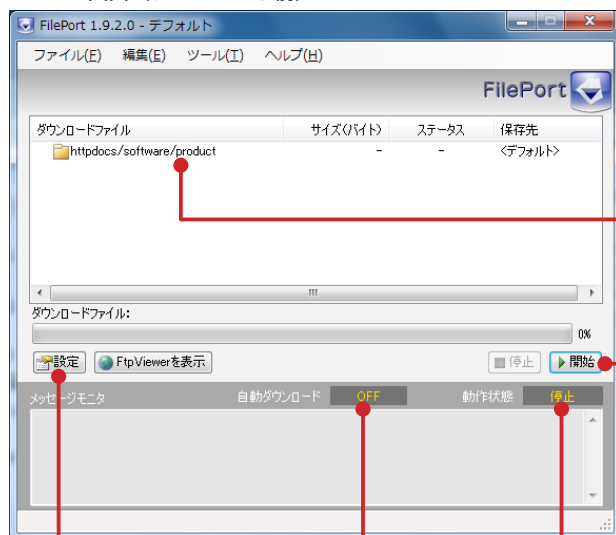


FilePort の画面

FilePort を起動すると、設定済みのダウンロード対象のファイル（ディレクトリ）のリストが表示されます。ダウンロード対象ファイルのリストや、FilePort の動作について設定変更を行なうときは、「設定」ボタンをクリックします。（メニューからも選択可）

「開始」ボタンをクリックするとダウンロードを開始します。（自動ダウンロードが有効の場合はダウンロード待機）自動ダウンロードが有効でなければ、対象のファイルを全てダウンロードすると停止します。途中でダウンロードをキャンセルする場合や自動ダウンロードを一時的に停止する場合は「停止」ボタンをクリックします。

FilePort 画面（ダウンロード前）



ダウンロード対象ファイル（ディレクトリ）リスト
※この画面ではディレクトリが1つだけ設定されています。

ダウンロード開始ボタン

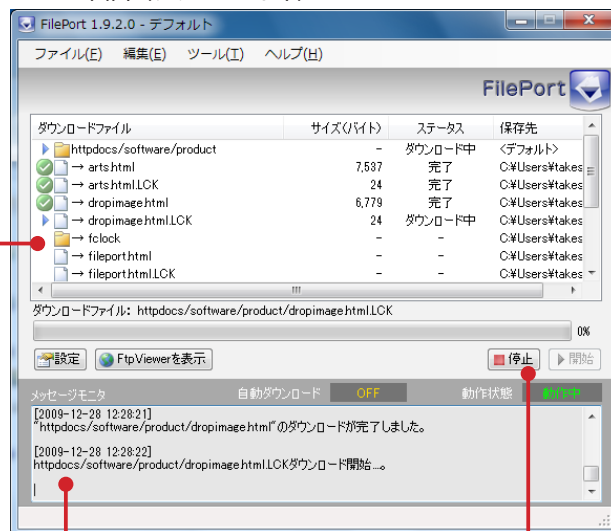
設定ボタン

自動ダウンロードの状態
・「ON」.... 自動ダウンロード有効
・「OFF」.... 自動ダウンロード無効

ダウンロード処理の状態
・「動作中」.... ダウンロード処理中
・「待機中」.... 自動ダウンロード待
・「停止」.... 停止

次のいずれかのダウンロード状態
・「-」.... ダウンロード前
・「ダウンロード中」
・「完了」
・「キャンセル」
・「エラー」

FilePort 画面（ダウンロード中）

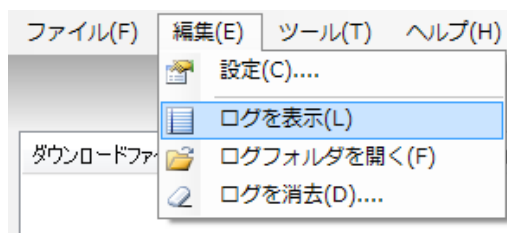


ダウンロード状態やエラーなどのメッセージを表示

ダウンロード停止ボタン

ダウンロード対象としてディレクトリを登録した場合は、ダウンロード開始時にサーバーへ接続し、ディレクトリの中を調べ、ファイルとディレクトリのリストを自動生成します。

FilePort は自動ダウンロードで動作する機能を持っているため、ダウンロードエラー等に対してダイアログによる表示を行いません。直前のダウンロードが成功したかどうかを確認するためには、リスト表示の「ステータス」を調べるか、「メッセージモニタ」で確認します。当日のダウンロードに関しては、メニューから「編集」→「ログを表示」を選びます。過去のログはメニューから「編集」→「ログフォルダを開く」を選んでください。



基本的な使い方

ここでは最初に FilePort を起動してからダウンロードするまでの基本的な使い方を、順を追って説明いたします。

各手順にはオプションとして選択可能な項目がありますが、基本的にデフォルトの設定のまま行なうものとします。オプションについては適宜それぞれの説明ページを参照してください。

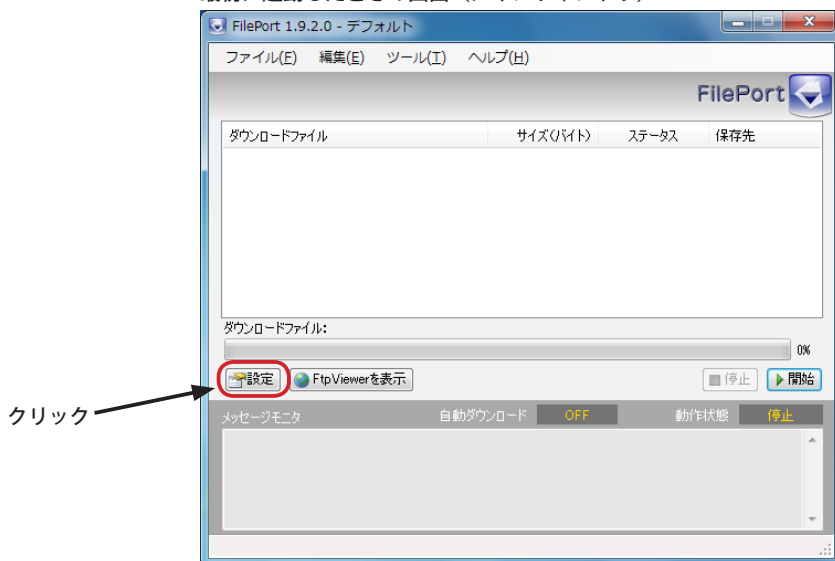
※ FilePort をアイコンから起動し、ライセンスキーを入力済ということを前提とします。

初期画面

FilePort を最初に起動したときは、下図のようにダウンロード対象のファイル（ディレクトリ）リストが設定されていません。また、接続する FTP サーバーについても設定されていないので、ダウンロードは実行できません。

「設定」ボタンをクリック（またはメニューの「編集」－「設定」）して設定画面を開きます。

最初に起動したときの画面（メインウィンドウ）

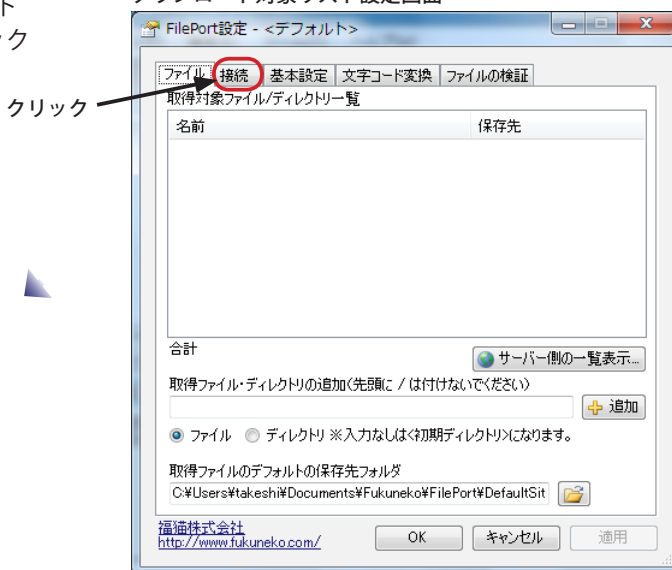


FTP サーバーへの接続設定

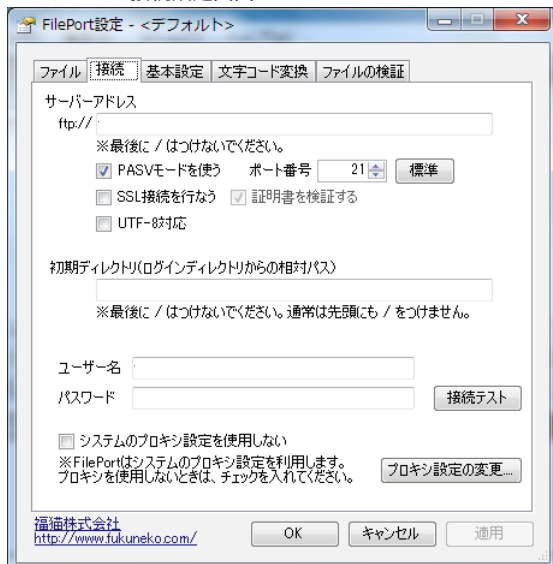
最初に FTP サーバーへの接続設定を行ないます。

「設定」画面が表示された直後は、ダウンロード対象リストを設定する画面になっています。タブの「接続」をクリックしてください。

ダウンロード対象リスト設定画面



FTP サーバー接続設定画面



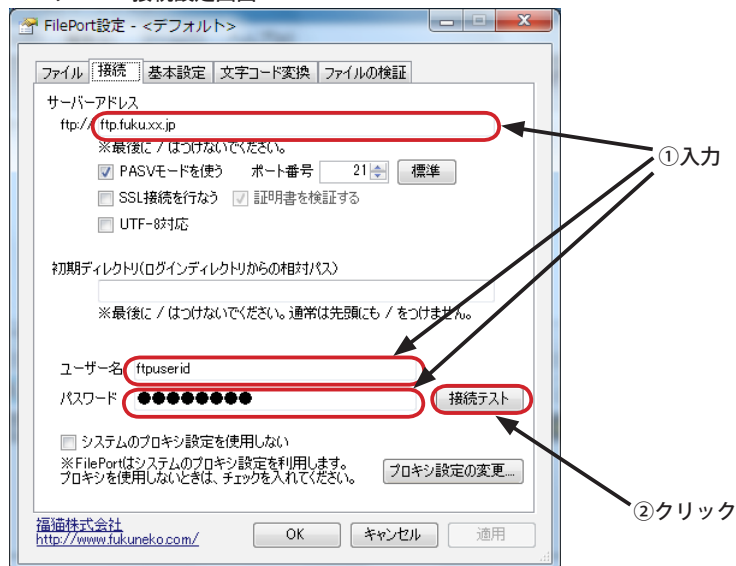
FTP サーバーへの接続設定

接続する FTP サーバーのアドレス、(ログイン) ユーザー名、パスワードを入力してください。入力後、必ず「接続テスト」ボタンをクリックして接続テストを行なってください。ここで接続テストを行なわないと、この後で使用する「FtpViewer」にサーバーの接続情報が反映されません。

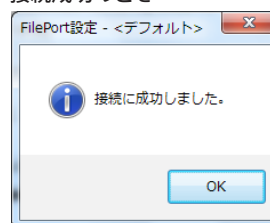
接続が成功すると「接続に成功しました」というメッセージが表示されます。

※接続のためには、オプションの設定が必要な場合があります。詳しくは「第3章 FilePort の設定」－「接続」を参照してください。

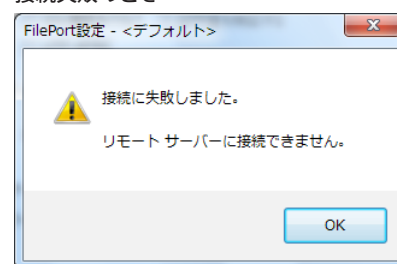
FTP サーバー接続設定画面



接続成功のとき



接続失敗のとき



取得ファイルリストの設定①

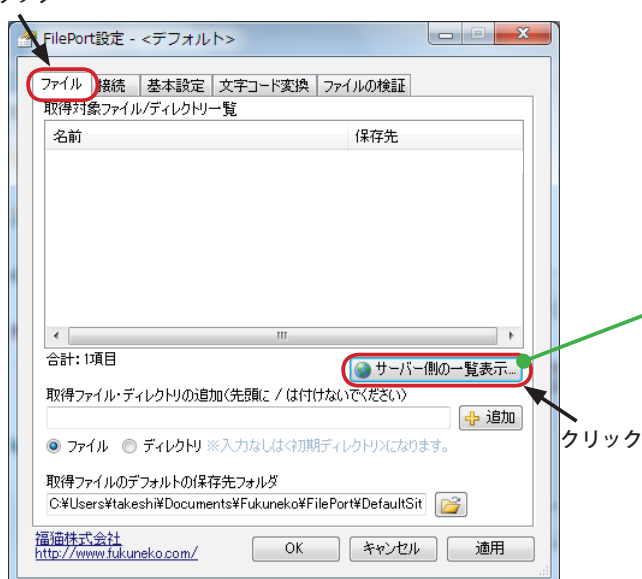
画面上のタブ「ファイル」をクリックしてください。

最初は何も設定されていない「取得対象ファイル/ディレクトリ一覧」が表示されます。

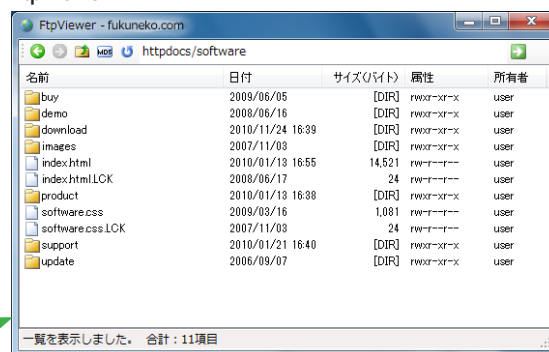
この一覧への追加には2つの方法がありますが、今回はFtpViewerを利用した方法で行います。

「サーバー側の一覧表示」ボタンをクリックしてください。(FtpViewerが開きます。)

クリック



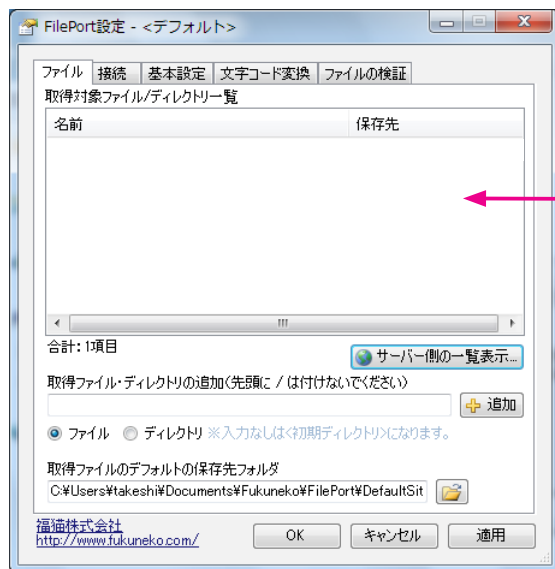
FtpViewer



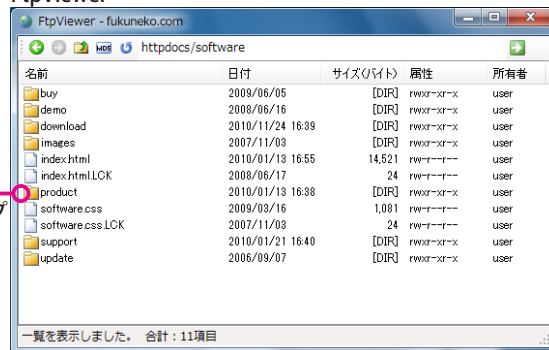
※ FtpViewer は、メインウィンドウの「FtpViewer 表示」ボタンをクリックしても開きます。設定画面で「OK」ボタンがクリックされると、設定画面と共に閉じられます。

取得ファイルリストの設定②

FtpViewer で取得対象するファイルやディレクトリを選択し、「取得対象ファイル/ディレクトリ一覧」へドラッグ&ドロップします。すると、「取得対象ファイル/ディレクトリ一覧」に追加されます。



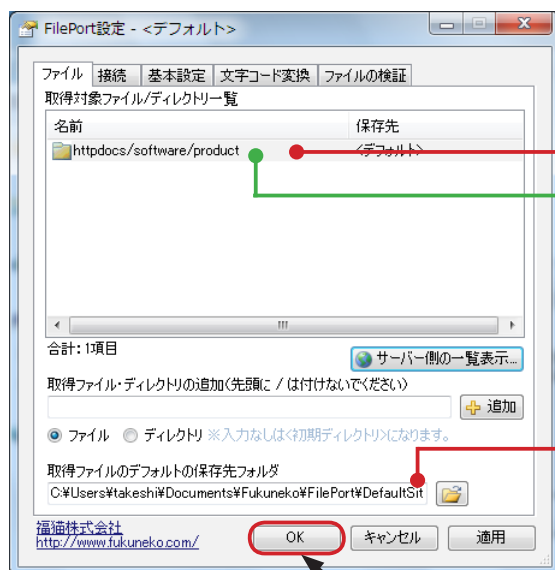
FtpViewer



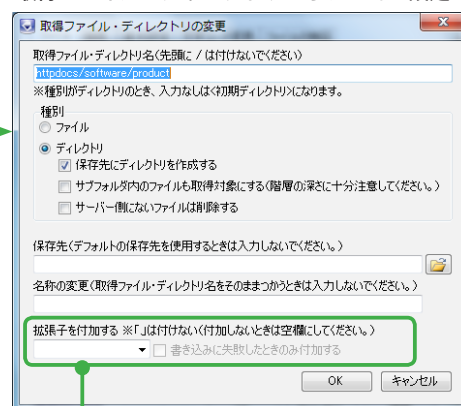
※ Shift キーや Ctrl キーを押したままクリックすると複数のファイルやディレクトリを選択できます。

「取得対象ファイル/ディレクトリ一覧」に追加されます。必要に応じて、ファイルやディレクトリそれぞれのオプションを設定します。オプションのダイアログボックスはダブルクリックまたは右クリックのコンテキストメニューの「取得ファイルの変更」で開くことができます。

オプションで指定されない限り、ダウンロードされたファイル（ディレクトリ）の保存先は「取得ファイルのデフォルトの保存先フォルダ」になります。（画面下部）



取得ファイル/ディレクトリのオプション設定



新機能

拡張子を付加する

この入力欄に拡張子を入力（またはドロップダウンメニューから選択）すると、ダウンロードしたファイルに拡張子（任意の文字）を付け足すことができます。

※拡張子には、（ドット）を付けしないでください。

拡張子を付加する ※「」は付けたくないときは空欄にしてください

書き込みに失敗したときのみ付加する

「書き込みに失敗したときのみ付加する」チェックボックスにチェックを入れると、書き込みエラーが起きたときだけ、拡張子が付け足されます。

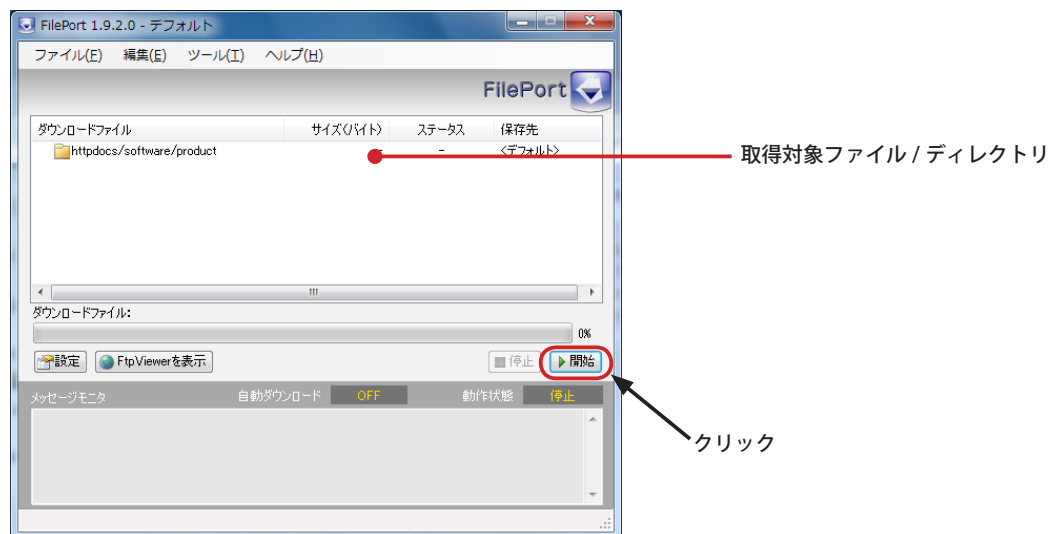
必要なだけ追加を繰り返します。一覧から削除するためには、「Delete」キーを押すか、右クリックのコンテキストメニューから「削除」を選びます。

追加が完了したら「OK」ボタンをクリックします。（設定画面が閉じます）

ダウンロード

設定画面が閉じると設定された取得対象ファイル/ディレクトリリストが適用されます。(下図ではディレクトリが1つのみ)

「開始」ボタンをクリックすると、ダウンロード処理を開始します。



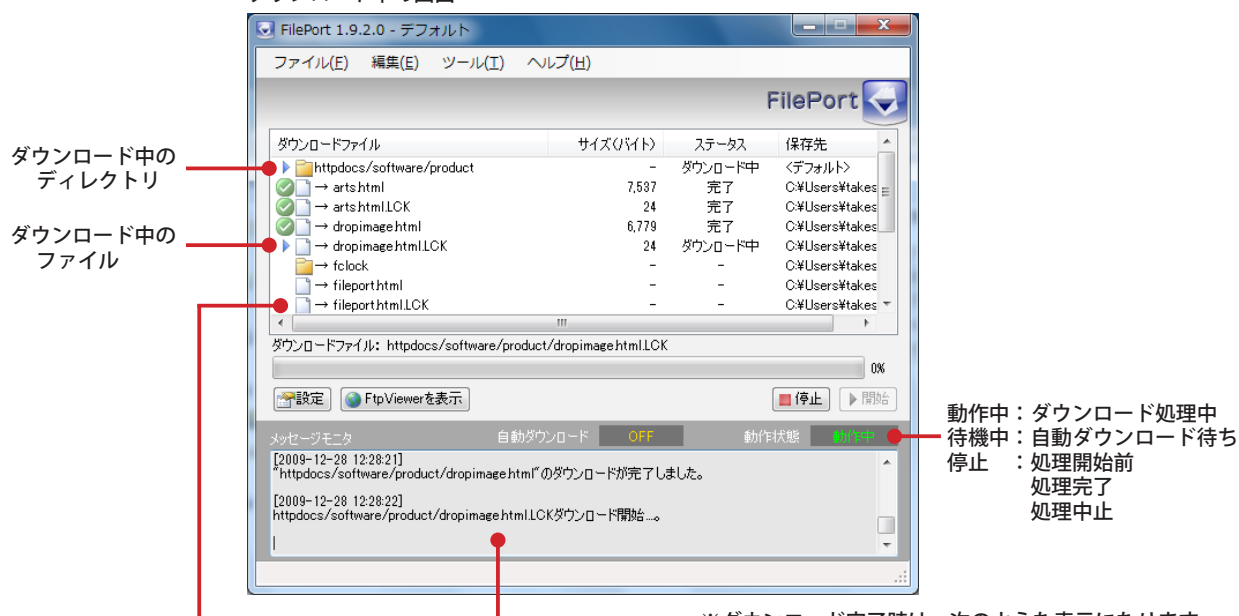
ダウンロード処理が開始されると、取得対象にディレクトリを含んでいる場合は、自動的に（サーバーへ接続し）ディレクトリが展開され、ダウンロードファイルのリストが表示されます。

すべてのダウンロードファイルのリストが表示されると、実際のダウンロードが開始されます。

ダウンロードを中止するときは、「停止」ボタンをクリックします。

全てのファイルのダウンロードが完了すると、メッセージモニタに「--- ダウンロード処理が終了しました。---」などのメッセージが表示され、動作状態が「停止」になります。(自動ダウンロードが有効な場合は「待機中」)

ダウンロード中の画面



※ディレクトリは自動的に展開される。ディレクトリの下ファイルなどは先頭に「→」が付加される。

※ダウンロード完了時は、次のような表示になります。

```
[2010-01-28 11:55:54]
--- ダウンロード処理が終了しました。 ---

[2010-01-28 11:55:54]
ダウンロード後の処理をしています。

[2010-01-28 11:55:54]
ダウンロード後の処理が終了しました。

[2010-01-28 11:55:54]
停止しました。
```

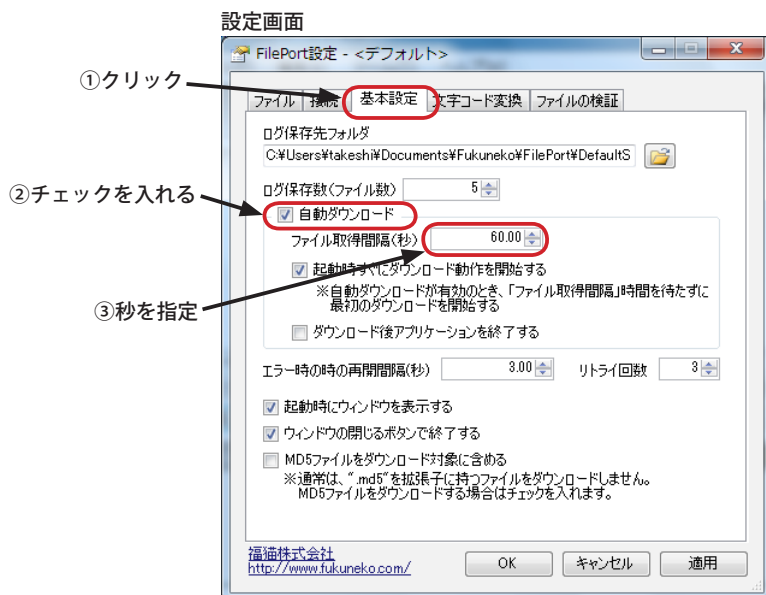
自動ダウンロード

自動ダウンロードを有効にすると、指定時間隔毎に自動的にダウンロードを行うことができます。

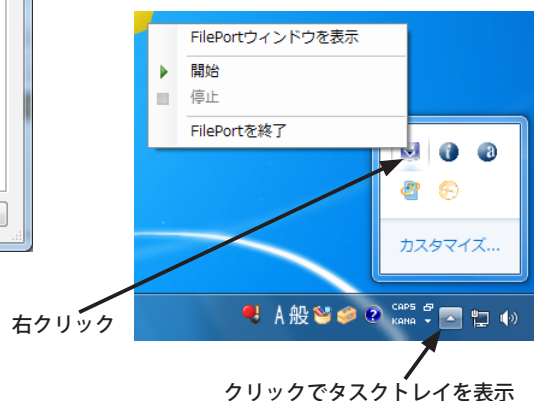
自動ダウンロードは、設定画面の「基本設定」タブで行います。

「自動ダウンロード」にチェックを入れ、「ファイル取得間隔」にダウンロードを行いたい間隔の時間を指定します。時間は秒単位で入力します。(1/100 秒まで指定可)

「起動時すぐにダウンロード動作を開始する」にチェックが入っていると、FilePort を起動した直後、設定画面で OK を押した直後、ダウンロード停止時に開始ボタンを押した直後にダウンロード動作を開始します。チェックが入っていないときは、指定時間経過後に初めてダウンロード動作を開始します。



※「起動時にウィンドウを表示する」オプションを無効にしていると、FilePort ウィンドウが表示されないため、操作できません。その場合はタスクバーのタスクトレイで右クリックして表示されるメニューから「FilePort ウィンドウを表示」を選択してください。



※「ctrl」キーを押したまま FilePort を起動させると、一次的に自動ダウンロードを停止することができます。また、オプション指定（起動時にウィンドウを表示するオプション）に関わらず、ウィンドウを表示します。

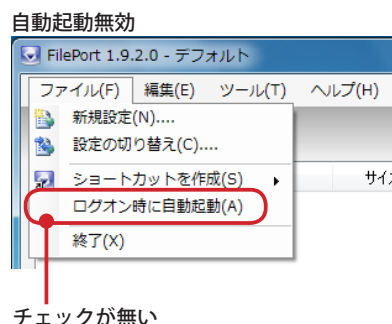
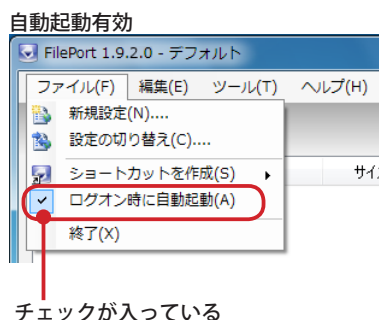
自動起動

FilePort は、Windows へログオン時に自動起動させることができます。

メインウィンドウのメニューで、「ファイル」→「ログオン時に自動起動」を選びます。メニューにチェックが入っていればログオン時に自動起動します。もう一度メニューを選ぶとチェックが無くなり、自動起動は無効になります。

※自動起動は、設定を行っているユーザー（ログオンユーザー）に対して有効になります。他のユーザーでログオンすると自動起動しません。ご注意ください。

※ FilePort は複数の設定を切り替えて使用することができます。自動起動は、それぞれの設定毎に ON-OFF を設定します。

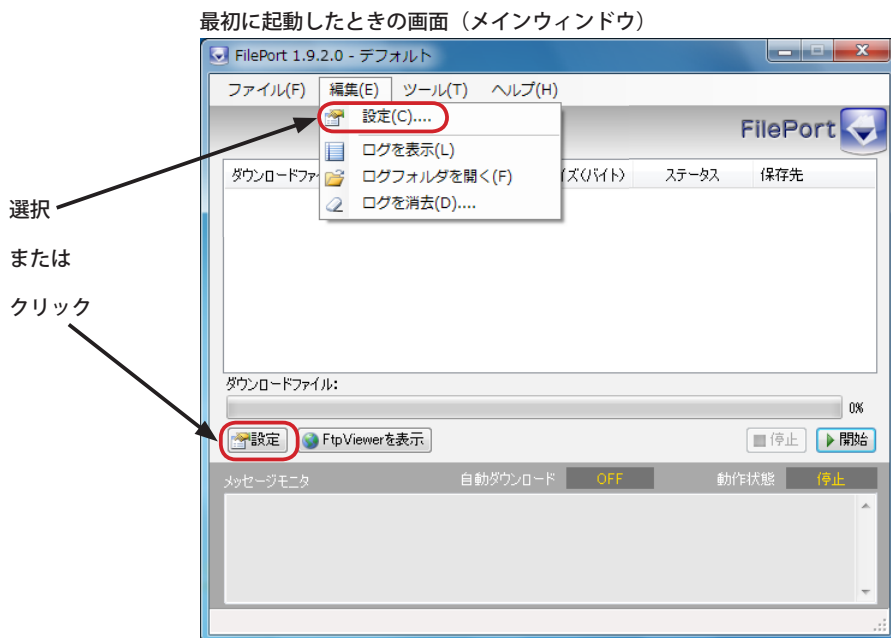


第 3 章 FilePort の設定

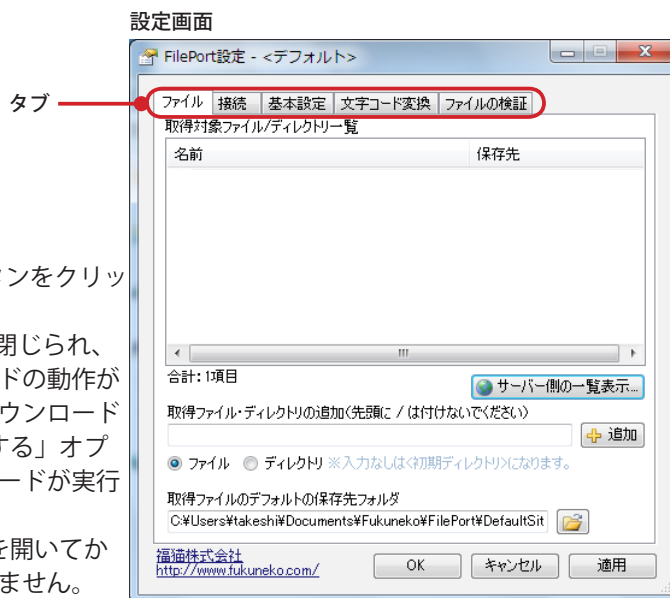
第 3 章 FilePort の設定

FilePort の設定は設定画面を開いて行います。設定画面は FilePort のメインウィンドウ (起動したときに表示される画面) から、「設定」ボタンをクリックする、または、メニューの「編集」－「設定」を選んで開きます。

※ FilePort は複数の設定を切り替えて使用することができます。この章で説明する設定は、**選択されている現在の設定**について変更を行うことという点に注意してください。



設定画面は複数のタブで構成されています。設定画面を開いたときは「ファイル」タブの操作ができる状態になっています。別の機能を設定するときは、それぞれのタブをクリックして切り替えます。



設定を保存するときは「OK」または「適用」ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックした場合は、設定画面が閉じられ、変更内容がすぐに反映されます。もしダウンロードの動作が行われていればその時点で中止されます。自動ダウンロードを有効にし、「起動時すぐにダウンロードを実行する」オプションを有効にしている場合は、すぐにダウンロードが実行されます。

「適用」ボタンをクリックした場合は、設定画面を開いてから行った変更を全て保存します。画面は閉じられません。「キャンセル」ボタンをクリックした場合は、「適用」ボタンがクリックされた後の変更を全て破棄して、画面が閉じられます。「適用」ボタンで保存された内容はすぐに反映されません。設定内容が反映されるのは、次に FilePort が起動したとき、または設定が切り替えられたときです。

接続

設定画面の接続タブでは、FTP サーバーへの接続設定を行います。「サーバーアドレス」、「ユーザー名」、「パスワード」が必須項目です。

①サーバーアドレス

FTP サーバーのドメイン名を含めたホスト名を入力してください。(IP アドレスも可)

②PASV モードを使う

チェックを入れると「パッシブモード」で接続します。(デフォルト)

③ポート番号

FTP サーバーへ接続するポート番号を変更する場合に、ポート番号を入力します。(デフォルト 21 番)

④標準ボタン

ポート番号を標準の 21 番へセットします。

⑤SSL 接続を行う

セキュリティを高める SSL/TLS による暗号化通信を行う場合にチェックを入れます。サーバーが対応している場合にのみ使用できます。また、FilePort は Explicit モードのみの対応です。SSH を利用した SFTP ではありませんのでご注意ください。

⑥証明書を検証する

SSL 接続を行う場合に、サーバーの証明書を検証するかどうかのオプションです。チェックを入れると、サーバーの証明書が一般的な認証局により認証されたものかどうかを検証します。自前で用意したサーバーで自己認証の証明書を利用する場合は、チェックをはずしてください。また、接続でエラーが生じる場合で、接続先サーバーが信頼できるときも、チェックをはずしてください。

⑦UTF-8 対応

サーバーが UTF-8 対応で、日本語のファイル名を使用する場合はチェックを入れてください。取得ファイルや FtpViewer で文字化けが生じていなければ、チェックを入れる必要はありません。

⑧初期ディレクトリ

FilePort はログインディレクトリを基準としてファイルをダウンロードします。別のディレクトリを基準とする場合にそのディレクトリを入力してください。サーバーの絶対パスで指定するときは、先頭の "/" の代わりに "//" を使用してください。

例) `/home/testuser/getfiles` → `//home/testuser/getfiles`

⑨ユーザー名

FTP サーバーへ接続し、ログインするためのユーザー名（ユーザー ID、ログイン ID）を入力します。

⑩パスワード

FTP サーバーへ接続し、ログインするためのパスワードを入力します。入力されたパスワードは●で示されます。

⑪接続テストボタン

入力された情報とオプションを使用して FTP サーバーへ接続します。接続ボタンをクリックすることにより、接続情報が FtpViewer へ反映されます。(OK ボタンや適用ボタンをクリックしても同様)

⑫システムのプロキシ設定を使用しない

FilePort は自動的にシステムのプロキシ設定を利用します。システムでプロキシサーバーが指定されているときに、プロキシサーバーを使用したくない場合は、チェックを入れます。

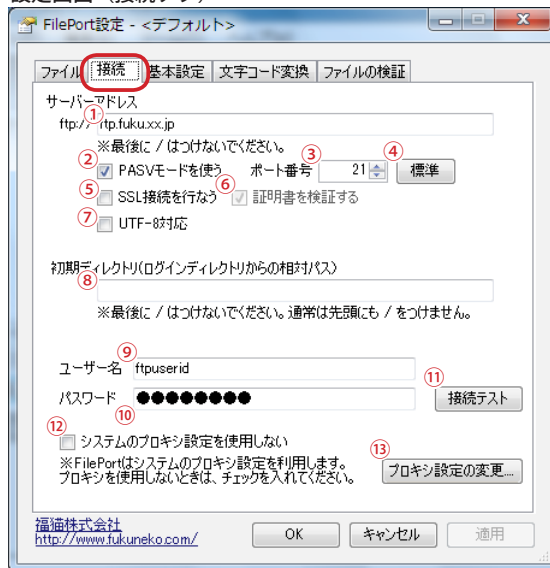
※ FilePort が利用できるのは http プロキシのみです。またプロキシを使用する場合、アップロードはできません。

対応プロキシサーバー：Squid / DeleGate / FreeProxy / BlackJumboDog

⑬プロキシ設定の変更ボタン

インターネットのプロパティ画面を表示します。「LAN の設定」ボタンでプロキシの設定を行うことができます。

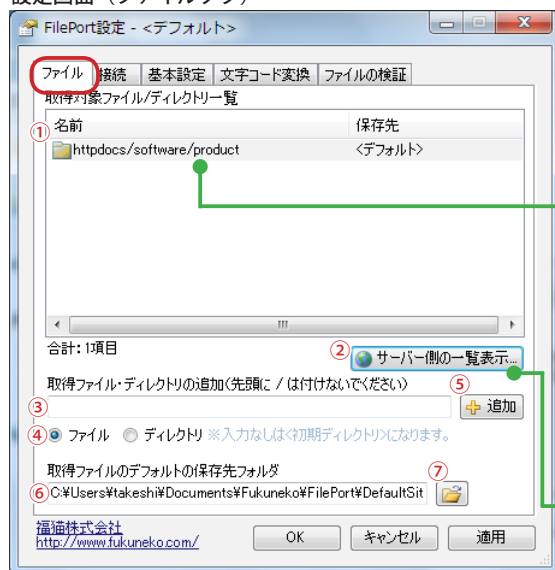
設定画面（接続タブ）



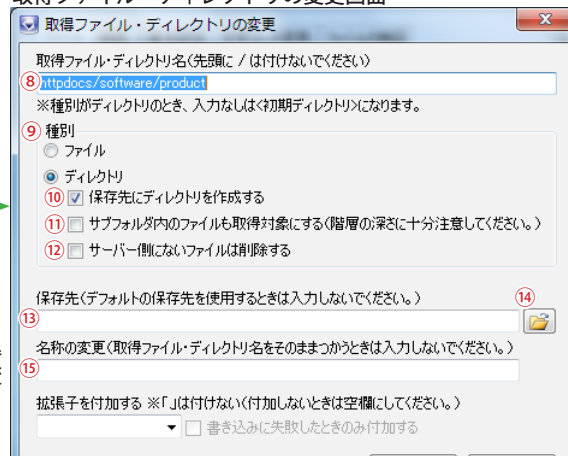
ファイル

設定画面のファイルタブでは、ダウンロードを行うファイルやディレクトリのリスト（取得対象ファイルリスト）を設定することができます。

設定画面（ファイルタブ）



取得ファイル・ディレクトリの変更画面



ダブルクリック

または

コンテキストメニューの「取得ファイルの変更」

FtpViewer の表示

①取得対象ファイル/ディレクトリー一覧

ダウンロード対象となるファイルやディレクトリのリスト（一覧）が表示されます。リストに表示されているファイルまたはディレクトリをダブルクリックするか、右クリックのコンテキストメニューから「取得ファイルの変更」を選択すると、「取得ファイル・ディレクトリの変更」画面が表示され、変更することができます。

リストから対象となるファイルやディレクトリを削除（一覧から取り除く）ためには、対象を選択（クリック）し、「delete」キーを押すか、右クリックのコンテキストメニューから「削除」を選びます。

②サーバー側の一覧表示ボタン

クリックすると、「FtpViewer」を開きます。FtpViewer は、サーバーへ接続して一覧を表示します。FtpViewer からファイルやディレクトリをドラッグ＆ドロップすることで取得対象ファイル/ディレクトリー一覧へ追加することもできます。（FtpViewer については後述）

③取得ファイル・ディレクトリの追加

取得対象リストへ追加するファイルやディレクトリ名を入力します。「接続」設定で「初期ディレクトリ」を設定している場合は、初期ディレクトリを除いたパスを入力します。

④ファイル/ディレクトリラジオボタン

取得対象リストへ追加するものがファイルなのかディレクトリなのかを指定します。ディレクトリを指定した場合は指定したディレクトリの中のファイルをダウンロードします。（オプション指定によりディレクトリを作成するかどうかを選択できます。）

⑤追加ボタン

入力したファイルやディレクトリを取得対象リストへ追加します。

⑥取得ファイルのデフォルトの保存先フォルダ

ダウンロードしたファイルを保存するフォルダを指定します。「取得ファイル・ディレクトリの変更」画面で保存先を指定しない場合は、ここで指定したフォルダへ保存されます。初期設定（デフォルト）次のフォルダになります。

“マイドキュメント ¥Fukuneko¥FilePort¥設定名 ¥Download”

⑦保存先フォルダの参照ボタン

⑥で指定したフォルダを参照したり変更したりします。

ファイル

⑧取得ファイル・ディレクトリ名

設定済のファイル・ディレクトリを変更できます。

⑨種別

ファイルかディレクトリかの区別を行います。

⑩保存先にディレクトリを作成する

種別がディレクトリするとき、このオプションにチェックが入っていると対象のディレクトリを作成し、その中にファイルをダウンロードします。

⑪サブフォルダ内のファイルも取得対象とする

種別がディレクトリするとき、このオプションにチェックが入っていると対象のディレクトリの中のディレクトリ（サブディレクトリ）の中のファイルもダウンロードされます。さらにディレクトリが存在している場合はディレクトリが見つからなくなるまでの階層をダウンロード対象とします。ディレクトリ階層が深い場合はダウンロードに非常に時間がかかることとなりますので、このオプションを有効にする場合は注意が必要です。

⑫サーバー側にはないファイルを削除する

種別がディレクトリするとき、このオプションにチェックが入っていると対象のディレクトリ内のファイルと保存先フォルダ内のファイルを比較し、サーバー側に存在しないファイルを保存先フォルダから削除します。⑩のオプションを無効にしている場合は、予想外のファイルが削除されることがあるので注意が必要です。（動作としては間違いではありませんが、ユーザーの想定外の動作になる可能性があります。）

サーバー側のファイル数が変動し、保存先フォルダ内と同期させたい場合などに使用します。

⑬保存先

ダウンロードされたファイルの保存先フォルダを指定します。種別がフォルダで、⑩のオプションを有効にしている場合は保存先にフォルダが作成され、その中にファイルがダウンロードされます。

ここでなにも指定しない場合（空白）は⑥で指定したデフォルトの保存先が使用されます。

⑭保存先の参照ボタン

⑬で指定したフォルダを参照したり変更したりします。

⑮名前の変更

ここで何も指定しない場合（空白）はファイル/ディレクトリ名がそのまま保存ファイル/ディレクトリ名となります。ディレクトリ内のファイルに対してはサーバー上の名前がそのまま保存ファイル名となります。

【重要】

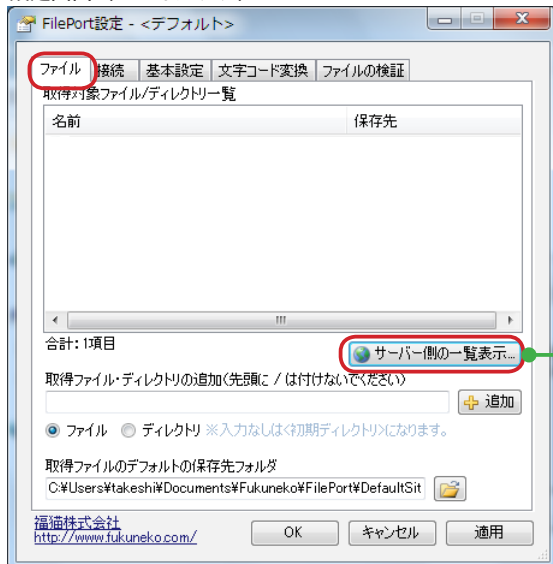
FilePort は初期設定（デフォルト）の状態では、".md5" という拡張子をファイル名に持つファイルをダウンロードしません。".md5" 拡張子のファイルをダウンロードするためには、設定の「基本」タブの「MD5 ファイルをダウンロード対象に含める」オプションにチェックを入れてください。ただし、".md5" 拡張子のファイルをダウンロード対象とした場合は、「ファイルの検証」オプションは使用できなくなります。

ファイル

FtpViewer

"FtpViewer" を利用すると、簡単に取得対象ファイルリストへファイルやディレクトリを追加することができます。設定画面の「ファイル」タブ上、「サーバー側の一覧表示 ...」 ボタンをクリックすると FtpViewer が開きます。

設定画面（ファイルタブ）



FtpViewer



FtpViewer は設定画面「接続」タブの設定に従って FTP サーバーへ接続します。ディレクトリを示すフォルダを形どったアイコンをダブルクリックすると、そのディレクトリへ移動し、一覧を表示します。⑥にサーバー内のパスを入力することによってもディレクトリを移動できます。

FtpViewer の一覧からファイルやディレクトリを選び、取得対象ファイル/ディレクトリー一覧へドラッグ&ドロップすると、そのファイルやディレクトリをダウンロード対象リストへ追加できます。

複数のファイルやディレクトリを一度に選択する場合は、「shift」キーまたは「ctrl」キーを押しながらクリックします。

①戻るボタン

FtpViewer で移動したディレクトリ履歴の 1 つ前に戻ります。

②進むボタン

FtpViewer で移動したディレクトリ履歴の 1 つ先に進みます。

③上のディレクトリへボタン

一覧を表示しているディレクトリの 1 つ上の階層へ移動します。

④ MD5 ファイル表示ボタン

FtpViewer は開いた直後は、ファイル名に ".md5" を拡張子を持つファイルを表示しません。".md5" 拡張子のファイルを一覧に表示させるためには、このボタンをクリックします。（トグル式ボタンですので、押されている状態が有効、押されていない状態が無効です。）

このボタンはアップロード機能にも影響します。有効のときは、".md5" 拡張子のファイルをアップロードできます。（無効のときは、".md5" 拡張子のファイルはアップロード対象外になります。）

⑤更新ボタン

サーバーへ再接続し、最新のファイル/ディレクトリー一覧を表示します。

⑥ディレクトリ入力欄

現在表示している一覧のディレクトリパスを表示します。新たにパスを入力して「enter」キーを押すと、入力したディレクトリへ移動し、一覧を表示します。

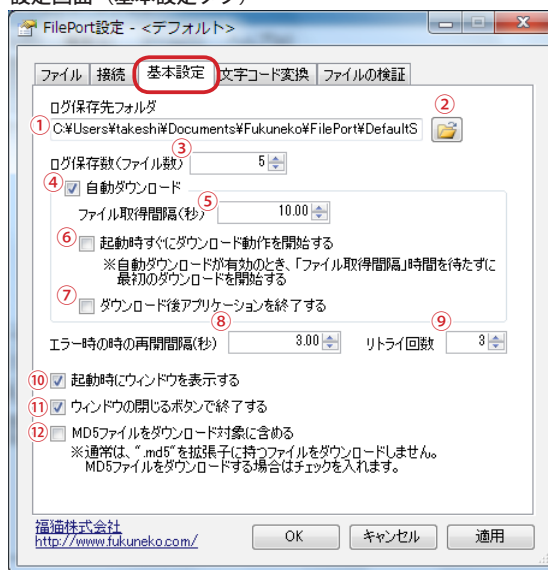
⑦移動ボタン

⑥で入力したディレクトリへ移動します。

基本設定

設定画面の基本設定タブでは、ログに関する設定、自動ダウンロード設定、FilePort 動作の設定などを行います。

設定画面（基本設定タブ）



① ログ保存フォルダ

ログファイルを保存するフォルダを指定します。初期設定では次のようになっています。

“マイドキュメント\Fukuneko\FilePort\設定名\Log”

② 参照ボタン

ログ保存先を参照（設定）するダイアログボックスを表示します。

③ ログ保存数

ログは、1日分を1ファイルとして扱います。保存数で指定したファイル数を超えた分は自動的に削除されます。初期設定では5ファイル（5日分）となっています。

④ 自動ダウンロード

チェックを入れると自動ダウンロードが有効になります。自動ダウンロードが有効になると、起動時（または設定画面でOKボタンがクリックされたとき）に動作が開始され、指定した一定の間隔でダウンロードを実行します。「ctrl」キーを押したままFilePortを起動すると、このオプションを一時的に無効にした状態で起動できます。

⑤ ファイル取得間隔

自動ダウンロードを行う間隔を秒で指定します。1/100秒単位での指定が可能です。ダウンロード間隔とは、取得対象ファイル/ディレクトリ一覧に設定されたファイルやディレクトリのダウンロードが完了してから、次のダウンロードが開始される間隔のことです。

⑥ 起動時すぐにダウンロード動作を開始する

このオプションにチェックが入っていると有効になります。有効の場合は、FilePortの起動時すぐに最初のダウンロード動作を開始します。無効の場合は、⑤で設定した秒数を待ってから最初のダウンロードを開始します。

⑦ ダウンロード後アプリケーションを終了する

このオプションにチェックが入っていると有効になります。有効の場合は、ダウンロード動作が一度だけ行われ、ダウンロード処理が終了するとFilePortも終了します。

Windowsのスケジューラなどを使用して定期的に実行したい場合などにこのオプションを使用します。このオプションが有効な場合、設定したファイルやディレクトリの数によっては、FilePortがすぐに終了してしまうことも考えられます。設定変更などを行いたいときは、「ctrl」キーを押したままFilePortを起動すると、このオプションを一時的に無効にした状態で起動できます。

⑧ エラー時の再開間隔

ファイルのダウンロードエラーや保存時にエラーが発生した場合は、自動的に再処理が行われます。その再処理を何秒後に行うかを指定します。（1/100秒単位で指定可）

⑨ リトライ回数

⑧に対する再処理を最大何回行うかを指定します。

⑩ 起動時にウィンドウを表示する

このオプションにチェックが入っている（有効）と起動時にFilePortのメインウィンドウを表示します。チェックが入っていない（無効）のときは、ウィンドウを表示しないでタスクトレイに格納されます。常に自動運用するときなどは無効にしておくとも誤操作で自動運用を停止してしまうことを防げます。

基本設定

⑪ ウィンドウの閉じるボタンで終了する

このオプションにチェックが入っている（有効）とメインウィンドウ右上の「×」ボタンで FilePort を終了させることができます。チェックが入っていない（無効）のときは、「×」ボタンをクリックすると、タスクトレイに格納されるようになります。常に自動運用するときなどは無効にしておくで誤操作で自動運用を停止してしまうことを防げます。

⑫ MD5 ファイルをダウンロードに含める

FilePort は初期状態ではダウンロード対象ファイル名に ".md5" の拡張子を持つファイルをダウンロードしません。
".md5" 拡張子のファイルをダウンロード対象に含める場合は、このオプションにチェックを入れて（有効）ください。
このオプションを有効にした場合は「ファイルの検証」機能を利用できませんのでご注意ください。

文字コード変換

設定画面の文字コード変換タブでは、ファイル内の文字列のエンコードを変換することができます。（テキストファイルに限ります。）

FilePort は④で指定された拡張子を持つファイルをテキストファイルとみなし、ダウンロードしたファイル内の文字エンコード形式を変換します。

①テキストファイルの文字コード変換を行なう

このオプションにチェックを入れる（有効）とテキストファイルの文字エンコード形式の変換を行なうことができます。

②変換元の文字コード

FTP サーバーにあるファイルの文字エンコード形式を指定します。

"utf-8", "shift_jis", "euc-jp", "iso-2022-jp" を指定できます。

③変換先の文字コード

②の文字エンコードをどの文字エンコード形式に変換するかを指定します。この文字エンコード形式でファイルは保存されます。

"utf-8", "shift_jis", "euc-jp", "iso-2022-jp" を指定できます。

④変換対象ファイルの拡張子

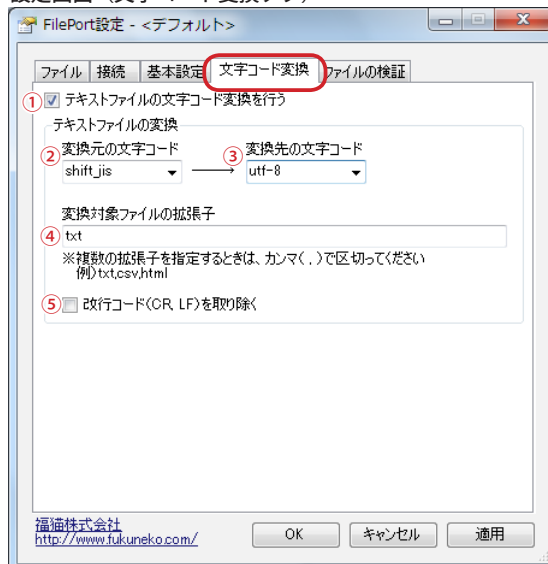
ここで入力された拡張子を持つファイルを変換対象とします。カンマ（,）で区切ることで対象とする拡張子を複数指定できます。拡張子にはドット（.）を含めないでください。

拡張子を持たないファイルを変換対象にするときは、空白（何も入力しない）にしてください。その場合は複数の指定はできなくなります。

⑤改行コード（CR,LF）を取り除く

対象となるテキストファイルから改行コードを取り除くときは、このオプションにチェックを入れてください。

設定画面（文字コード変換タブ）



ファイルの検証

設定画面のファイルの検証タブでは、ダウンロードしたファイルが正常にダウンロードされたかどうかを MD5 ハッシュ値を利用して検証を行うことができます。また、この機能を利用してファイルに更新がかかったのかどうかを判別して、無駄なダウンロード処理を抑えることができます。

① MD5 によるファイル検証を行う

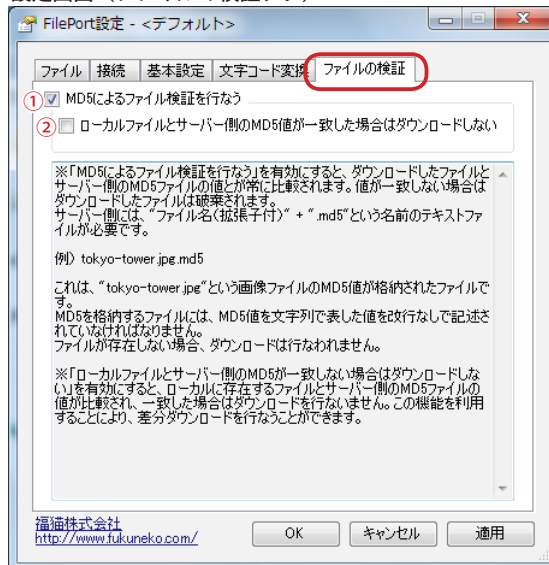
このオプションにチェックを入れる（有効）とダウンロードしたファイル（一時領域）と FTP サーバー内に配置された MD5 ハッシュ値を格納したファイル内のデータを用いて検証を行います。検証の結果 MD5 ハッシュ値が一致すれば、正常なファイルとして保存先に保存します。検証の結果 MD5 ハッシュ値が一致しなければ、不正なファイルとして破棄されます。

② ローカルファイルとサーバー側の MD5 が一致しない場合はダウンロードしない

このオプションにチェックを入れる（有効）とダウンロードを行う前に、保存済のファイルと FTP サーバー内に配置された MD5 ハッシュ値を格納したファイル内のデータを用いて検証を行います。検証の結果 MD5 ハッシュ値が一致すれば、ダウンロードを行いません。検証の結果 MD5 ハッシュ値が一致しなければ、ダウンロードを行います。

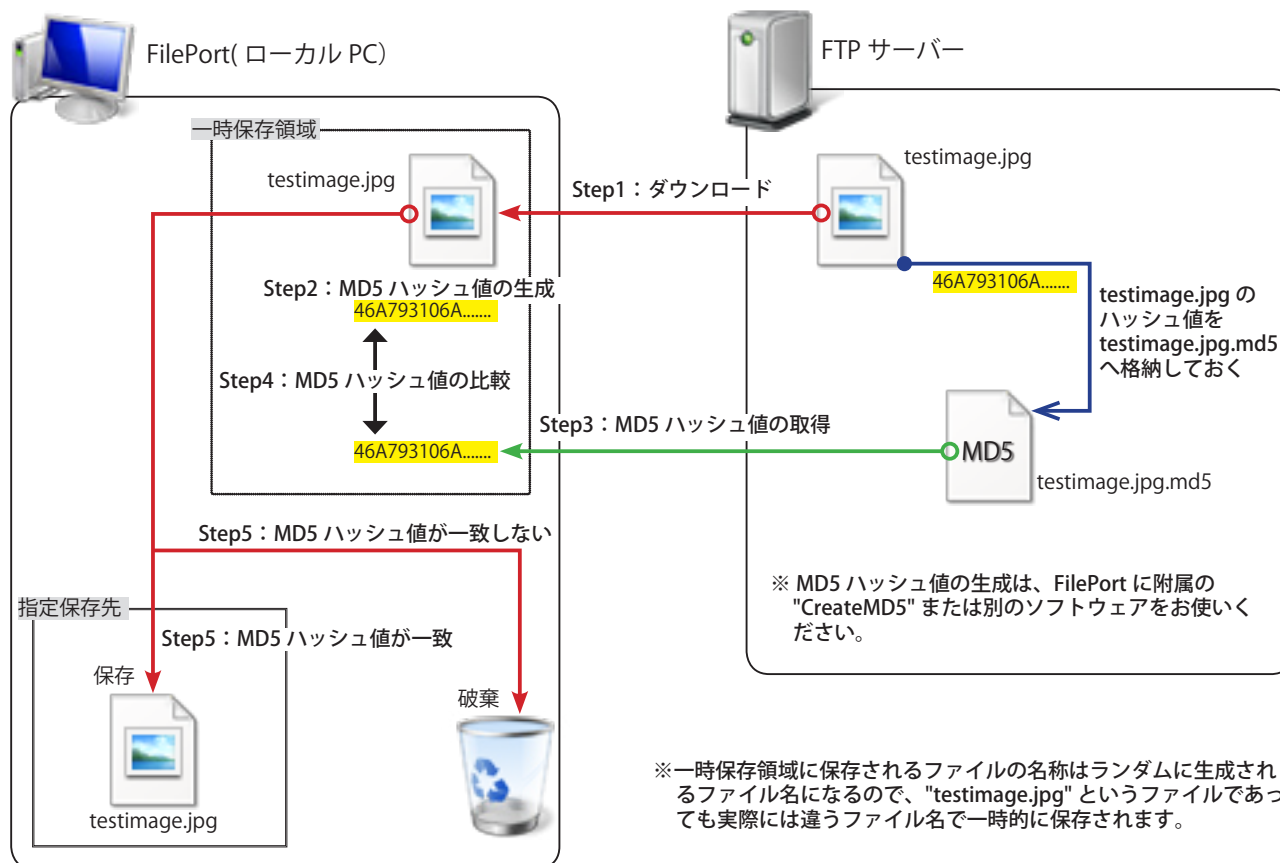
この機能を利用すると、サーバー側のファイルが更新されたかどうかを判別して無駄なダウンロード処理を行わないことが可能になります。

設定画面（ファイルの検証タブ）



【動作例：①のみが有効の場合】

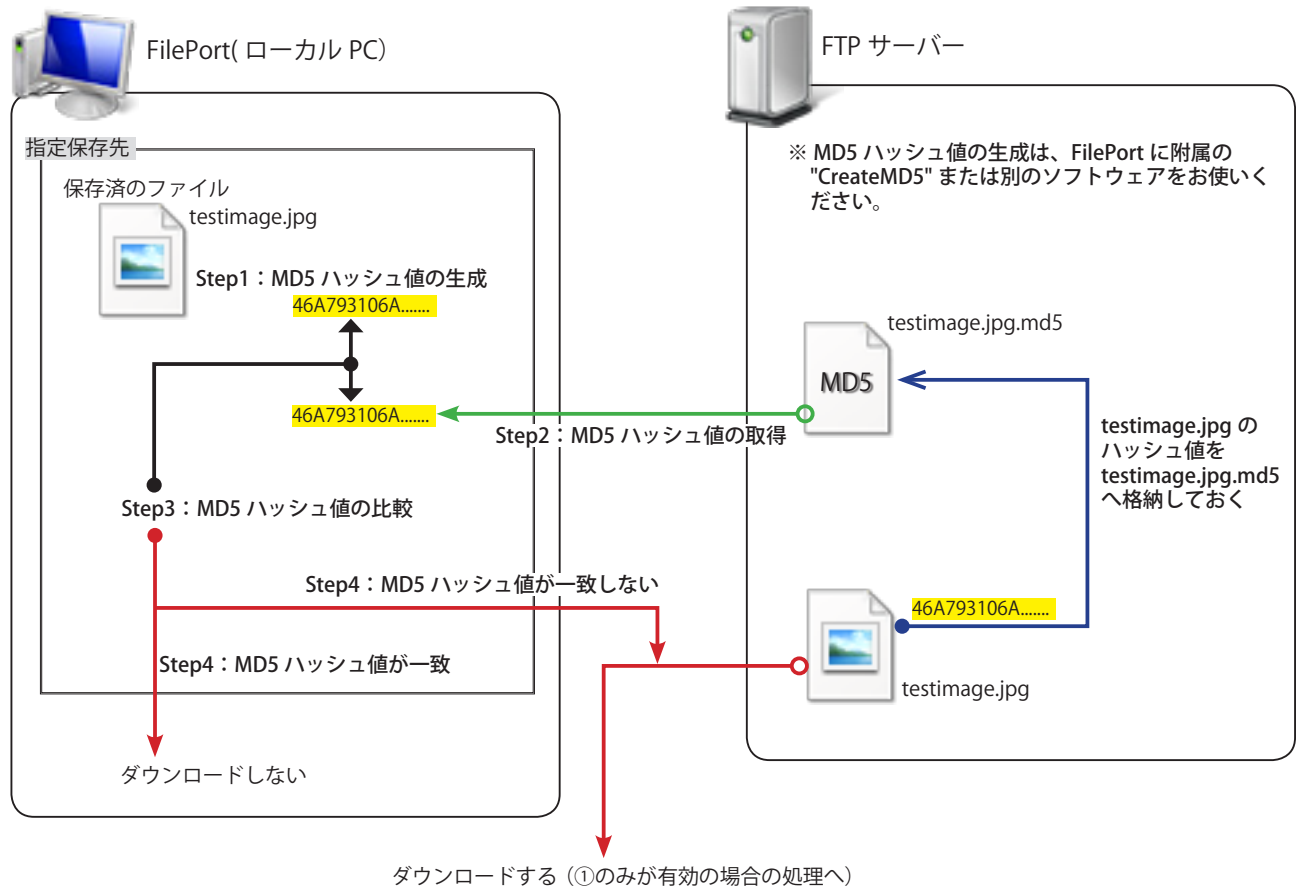
"testimage.jpg" というファイルをダウンロードする場合



ファイルの検証

【動作例：①②が有効の場合】

"testimage.jpg" というファイルをダウンロードする場合



※上記の場合、ローカルのファイル（保存済のファイル）とサーバーのファイルが同じとみなすことができるので、ダウンロードを行わない。
 ※ローカルのファイル（保存済のファイル）が存在しない場合はハッシュ値の比較を行わないので、必ずダウンロードが行われます。

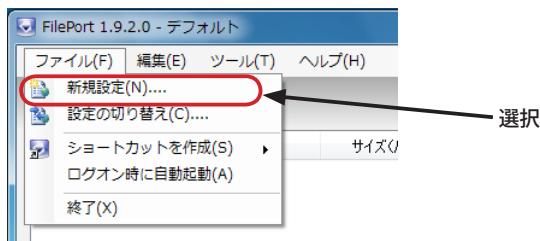
• MD5 ハッシュ値の生成方法については、「第5章 MD5 ファイルの生成」を参照してください。

第 4 章 FilePort の機能

新規設定（新しい設定を作る）

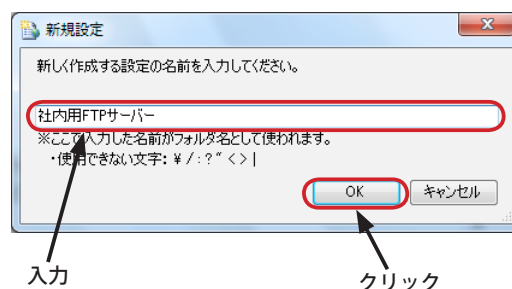
FilePort は新しい設定を作成することにより、複数の設定を切り替えて使用することができます。（複数の設定で同時ダウンロードもできます。）

新しい設定を作るためには、メインウィンドウ（起動直後に表示される画面）のメニューから「ファイル」－「新規設定」を選んでください。

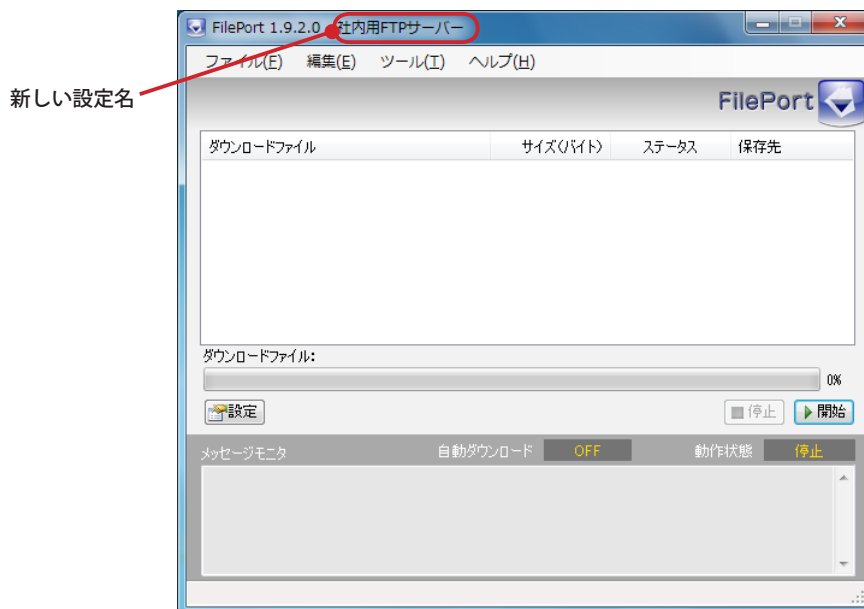


※インストール直後に作成されている FilePort のアイコンで起動させた場合は、「デフォルト」という名前の設定になっています。

新しい設定の名前を入力する画面が表示されます。任意の名前を入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。（ここでは、「社内用 FTP サーバー」という名称を入力しています。）

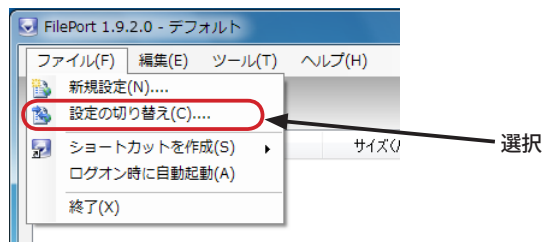


メインウィンドウのウィンドウタイトルが新しい設定の名称に変わります。この状態で、接続先や取得ファイルなどの新しい設定を行うことができます。

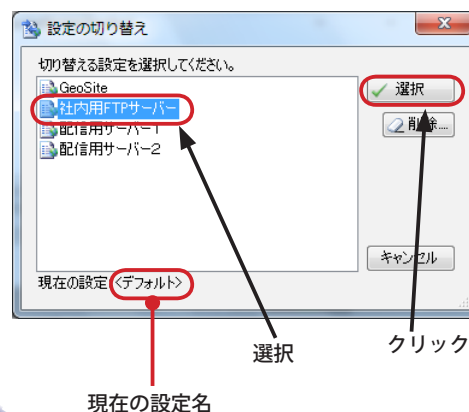


設定を切り替える

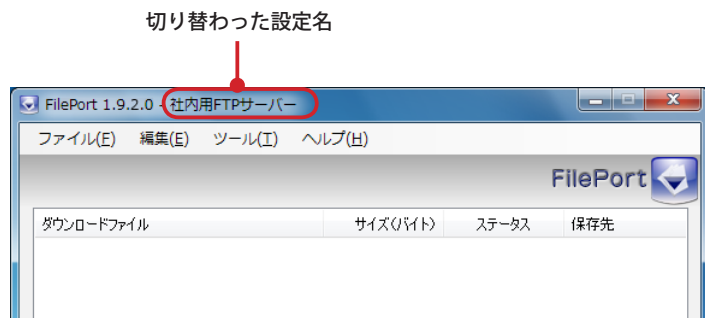
設定を作成後、別の設定で動作させる場合、または別の設定を変更する場合には設定を切り替えます。メインウィンドウ（起動直後に表示される画面）のメニューから「ファイル」－「設定の切り替え」を選びます。



保存されている設定の一覧が表示されます。切り替える設定を選択し、「選択」ボタンをクリックするか、ダブルクリックしてください。（現在の設定は、画面下部に表示されています。）

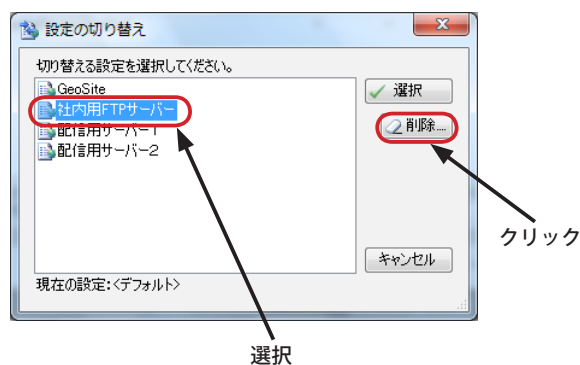


設定が切り替わると、メインウィンドウのウィンドウタイトルが変わります。



設定を削除する

設定を削除するためには、設定の切り替え画面で、削除したい設定を選択肢、「削除」ボタンをクリックします。



※現在の設定は削除できません。一旦別の設定に切り替えた後に削除してください。

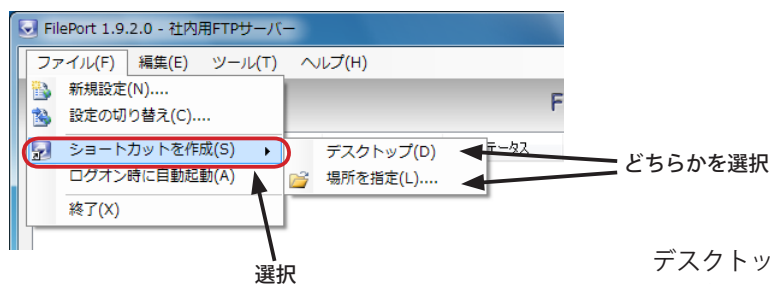
※デフォルトの設定は削除できません。

※削除を行った設定は復旧できませんのでご注意ください。

ショートカットの作成

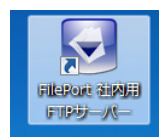
新しい設定を作成しても、インストール時に作成されたショートカットアイコンを使用して FilePort を立ち上げた場合は、常に<デフォルト>の設定が使用されます。設定を切り替えなくても FilePort を起動した直後から希望する設定を使用するためには、設定毎のショートカットを作成します。

メインウィンドウ（起動直後に表示される画面）のメニューから「ファイル」－「ショートカットを作成」を選びます。サブメニューが表示されるので、「デスクトップ」または、「場所を指定」を選びます。デスクトップに作成するときは、「デスクトップ」、任意のところに作成するときは、「場所を指定」を選びます。

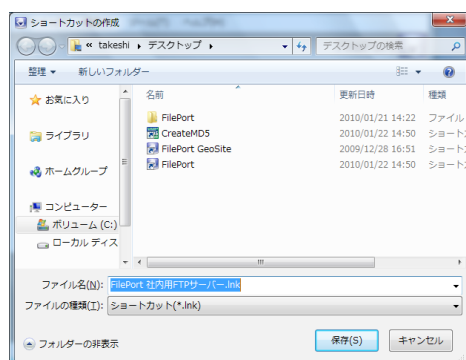


デスクトップを選択した場合、デスクトップにショートカットアイコンが作成されます。

「場所を指定」を選択した場合は、ショートカットの作成先を指定するダイアログボックスが表示されます。場所を指定して「保存」ボタンをクリックしてください。

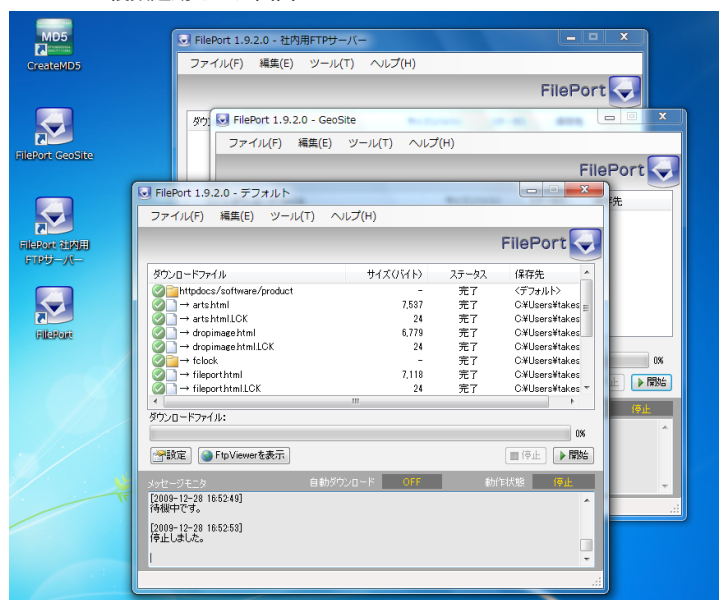


デスクトップに作成された
ショートカットアイコン



ショートカットを作成することにより、複数の FilePort を同時に起動させることができます。

FilePort を複数起動させた画面



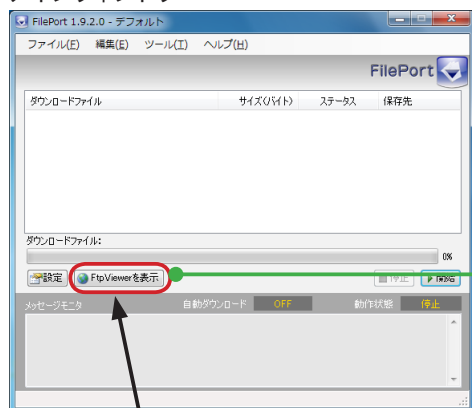
アップロード

FilePort から開く FtpViewer には、ファイルやフォルダを FTP サーバーへアップロードする機能があります。FtpViewer を開き、対象のファイルをドラッグ&ドロップすることによってアップロードすることができます。FtpViewer はアップロード時に、自動的に MD5 ファイルを生成する機能もあります。MD5 ファイルの生成については、「第5章 MD5 ファイルの生成」を参照してください。

※インターネット（システム）の設定でプロキシを利用するように設定されている場合は、アップロードを行うことができません。

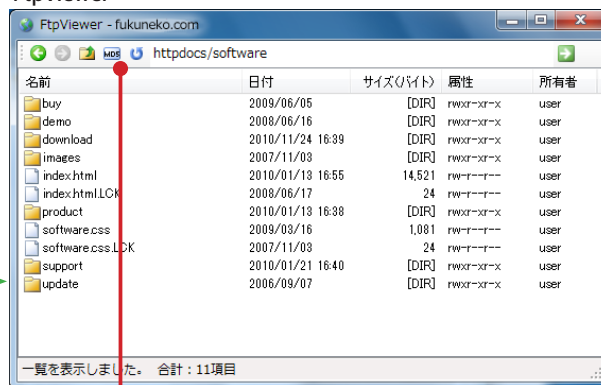
メインウィンドウ（起動直後に表示される画面）の「FtpViewer を表示」をクリックするか、メニューから「ツール」→「FtpViewer を表示」を選びます。（設定画面の「サーバー側の一覧を表示」ボタンでも FtpViewer を開くことができます。）

メインウィンドウ



クリック

FtpViewer



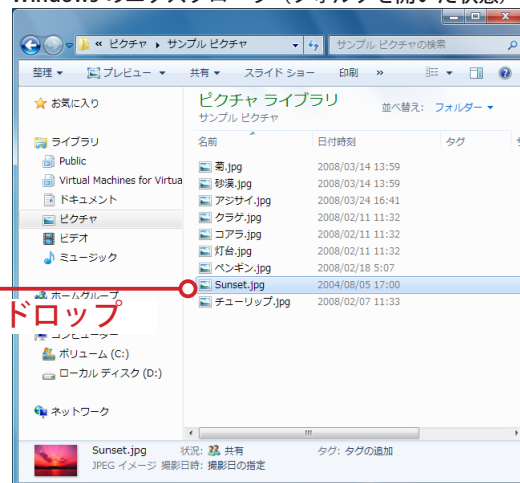
MD5 ファイル表示ボタン

Windows のエクスプローラから、ファイルやフォルダを FtpViewer へドラッグ&ドロップすると、アップロードを開始します。複数のファイルやフォルダを一度にアップロードするときには、「Shift キー」や「Ctrl キー」を押しながらエクスプローラでクリックして選択後、ドラッグ&ドロップします。

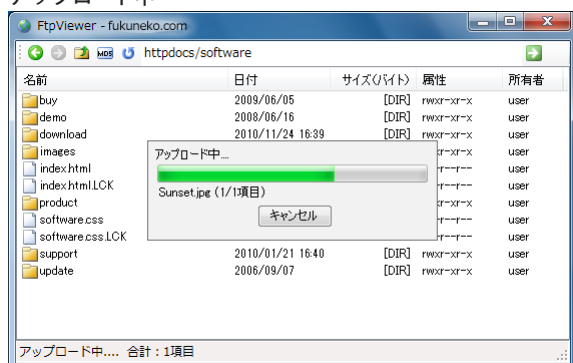


ドラッグ&ドロップ

Windows のエクスプローラ（フォルダを開いた状態）



アップロード中



※ FtpViewer で表示されているディレクトリ（フォルダのアイコン）の上でドロップした場合は、そのディレクトリの中にアップロードされます。

※ フォルダをエクスプローラで選択してドラッグ&ドロップした場合は、サブフォルダ以下のファイルやフォルダもすべてアップロードします。階層が深い場合は処理に時間がかかりますので、ご注意ください。

※ FtpViewer は、通常 ".md5" を拡張子を持つファイルをアップロード対象から外します。".md5" を拡張子を持つファイルをアップロードする場合は、「MD5 ファイル表示ボタン」が有効（押されている状態）でアップロードを行ってください。

FtpViewer の機能

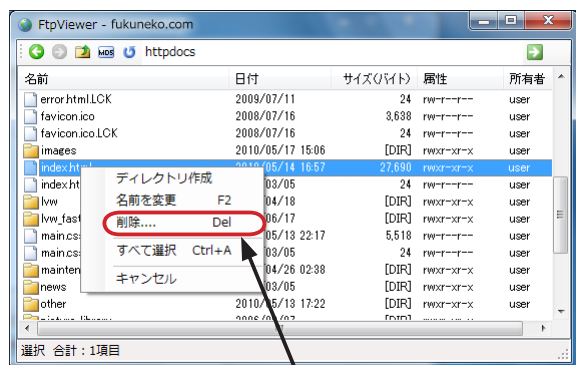
FtpViewer は簡易的な FTP クライアントの機能を提供します。FtpViewer には、次のような機能があります。

1. FTP サーバー内ファイル（ディレクトリ）の一覧を表示する → 「第3章 FilePort の設定」－「ファイル」－「FtpViewer」
2. FilePort のダウンロードファイル設定へのファイルパスを提供する → 「第3章 FilePort の設定」－「ファイル」－「FtpViewer」
3. FTP サーバーへファイルをアップロードする → 「第4章 FilePort の機能」－「アップロード」
4. MD5 ファイルの生成 → 「第5章 MD5 ファイルの生成」－「FtpViewer を使う」
5. FTP サーバー内のファイル（ディレクトリ）を削除 / 名前変更 / ディレクトリ作成

1～4の機能については、それぞれの章の該当する項目を参照してください。ここでは、5の機能について説明します。
 ※インターネット（システム）の設定でプロキシを利用するように設定されている場合は、1の一覧表示のみ実行可能です。

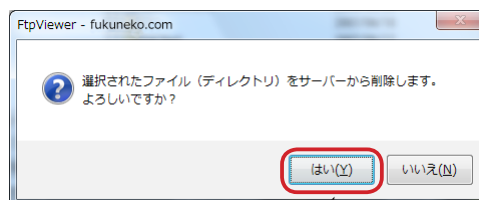
ファイル（ディレクトリ）の削除

削除対象のファイル（ディレクトリ）をクリックして選択し、右クリックで表示されるコンテキストメニューの「削除」を選びます。（「Delete キー」を押しても同様です）



選択

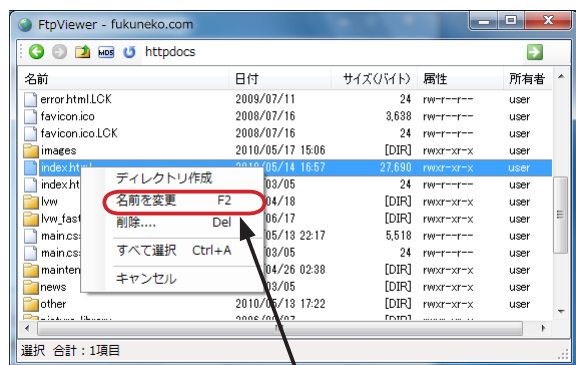
削除確認のダイアログボックスが表示されるので、「はい」をクリックすると削除が実行されます。



クリック

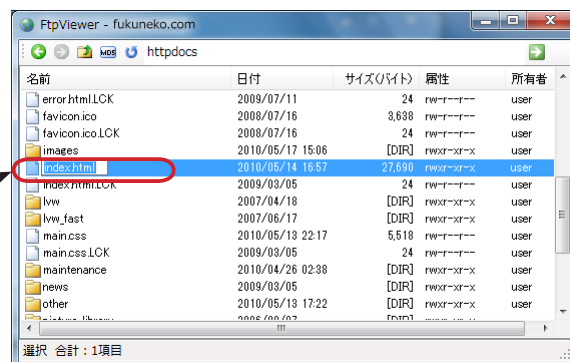
ファイル（ディレクトリ）の名前変更

名前変更対象のファイル（ディレクトリ）をクリックして選択し、右クリックで表示されるコンテキストメニューの「名前を変更」を選びます。（「F2 キー」を押しても同様です）



選択

名前が変更可能な状態になるので、新しい名前を入力します。「Enter キー」を押すか、他の場所をクリックすると変更が確定します。

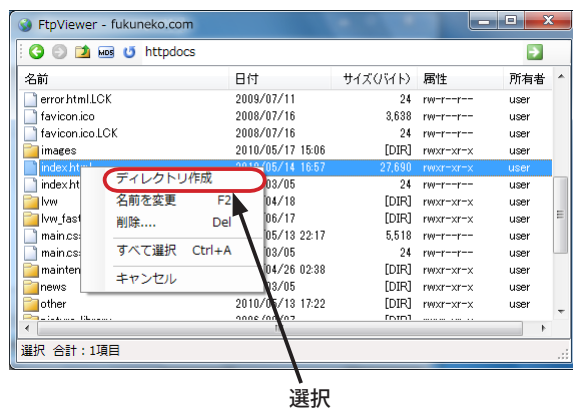


新しい名前を入力後、
「Enter キー」を押す

FtpViewer の機能

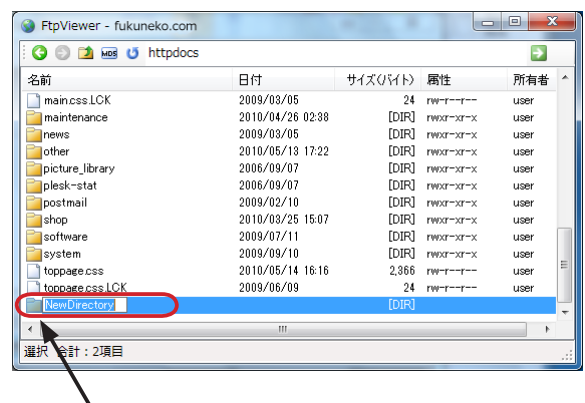
ディレクトリ作成

FtpViewer の一覧の任意の場所で右クリックし、表示されるコンテキストメニューの「ディレクトリ作成」を選びます。



一覧の一番下に、「NewDirectory」という名前のディレクトリが仮に追加され、名前を変更できる状態になります。作成するディレクトリの名前を入力して、「Enter キー」を押します。（「Enter キー」の代わりに、他の場所をクリックしても同様です）

※ FTP サーバーにディレクトリが作成されるのは名前確定後（「Enter キー」が押された後）になります。



「NewDirectory」という名称で仮にディレクトリが追加される。名前を入力後、「Enter キー」を押す

第 5 章 MD5 ファイルの生成

第 5 章 MD5 ファイルの生成

MD5 ファイルについて

FilePort のファイルの検証機能を利用するためには、ダウンロード対象ファイル毎に MD5 ハッシュ値を格納したファイルが必要になります。このファイルを「MD5 ファイル」と呼びます。

MD5 ファイルは次のような形式になります。

【ファイル名】

[対象のファイル名].md5

例) testimage.jpg というファイル名のファイルが対象のファイルの場合
testimage.jpg.md5

【内容】

対象のファイルの MD5 ハッシュ値（16 進数）を文字列として ASCII テキストファイルとして保存。改行コードは付加しない。

例) testimage.jpg というファイルの MD5 ハッシュ値が、"51113758B2F7F27B431B22E70B132466" の場合
ファイル名：testimage.jpg.md5 の内容は
51113758B2F7F27B431B22E70B132466

MD5 ハッシュ値の生成には様々なツールが利用できます。また、簡単なスクリプトを作成することにより FTP サーバー側で生成させることもできます。

この章では、FtpViewer を使ってアップロードと共に生成する方法、FilePort と共にインストールされる「CreateMD5」というツールを使って生成する方法と、PHP スクリプトにより FTP サーバー側で生成する方法を紹介します。

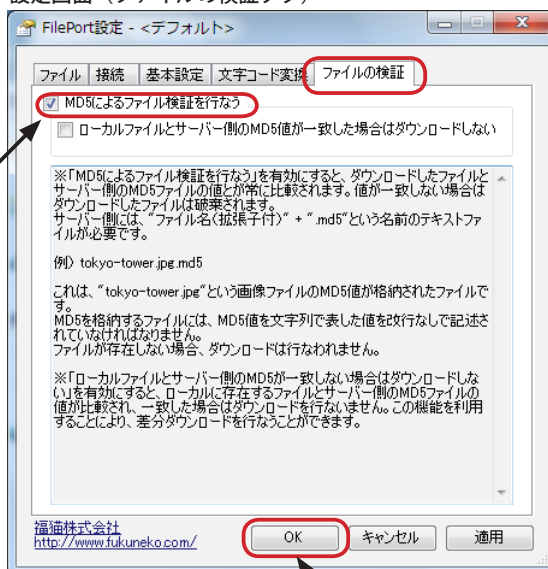
FtpViewer を使う

FtpViewer を使用すると、アップロードと共に MD5 ファイルを自動生成することができます。FilePort の設定によって、MD5 ファイルの自動生成を行うか行わないかが決定されます。

FilePort の設定画面の「ファイルの検証」タブを開きます。「MD5 によるファイル検証を行う」にチェックを入れます。設定を反映させるために、「OK」ボタンをクリックしてください。

※チェックが入っていないときは、MD5 ファイルの自動生成は行いません。

設定画面（ファイルの検証タブ）

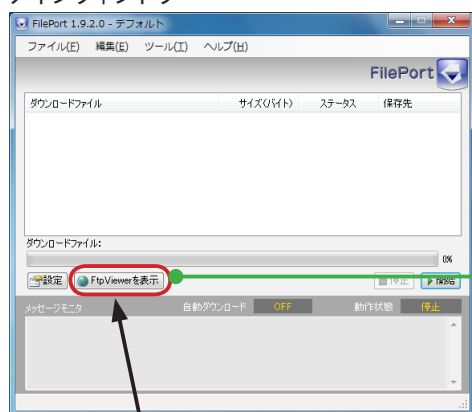


チェックを入れる

クリック

メインウィンドウ（起動直後に表示される画面）の「FtpViewerを表示」をクリックするか、メニューから「ツール」－「FtpViewerを表示」を選びます。

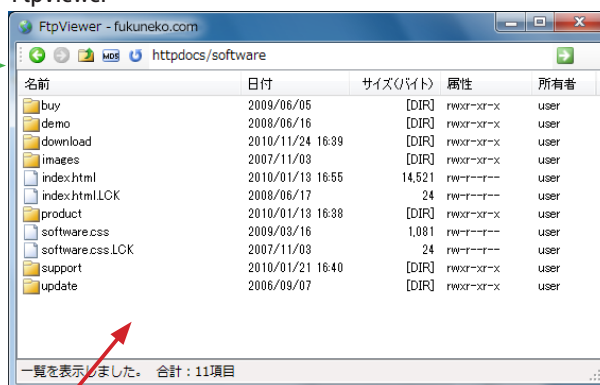
メインウィンドウ



クリック

FtpViewerが開く

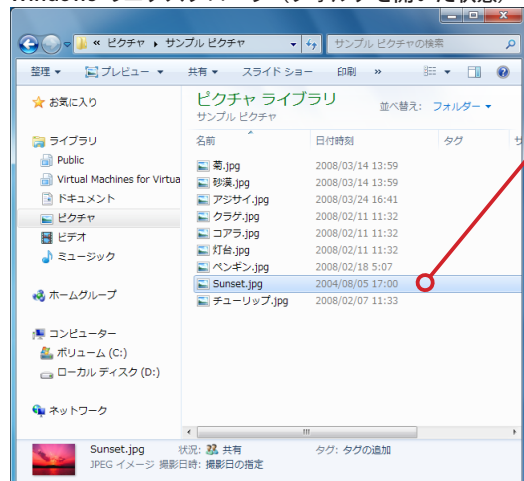
FtpViewer



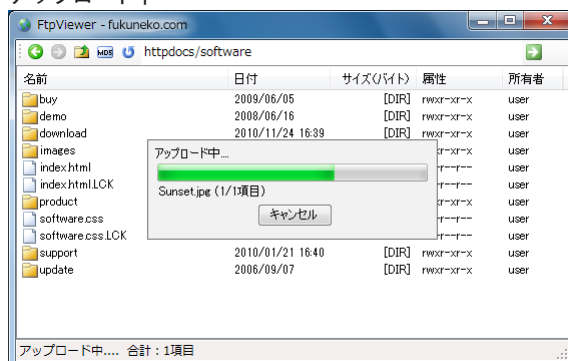
ドラッグ&ドロップ

Windows のエクスプローラから、ファイルやフォルダを FtpViewer へドラッグ&ドロップすると、アップロードを開始します。（複数のファイルやフォルダを一度にアップロードするときは「Shift」キーや「Ctrl」キーを押しながら選択してください。）

Windows のエクスプローラ（フォルダを開いた状態）



アップロード中

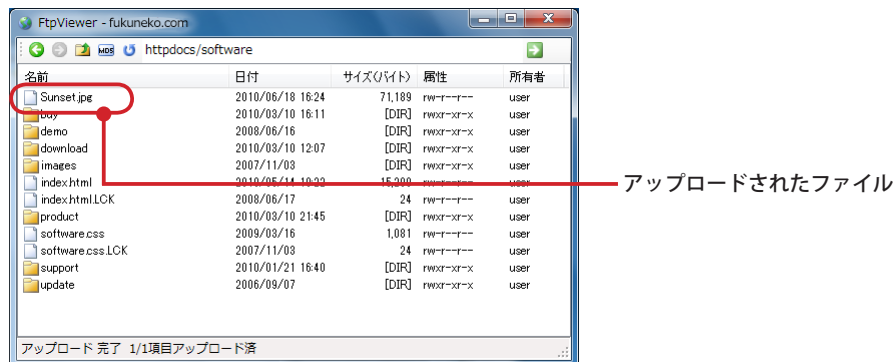


FtpViewer を使う

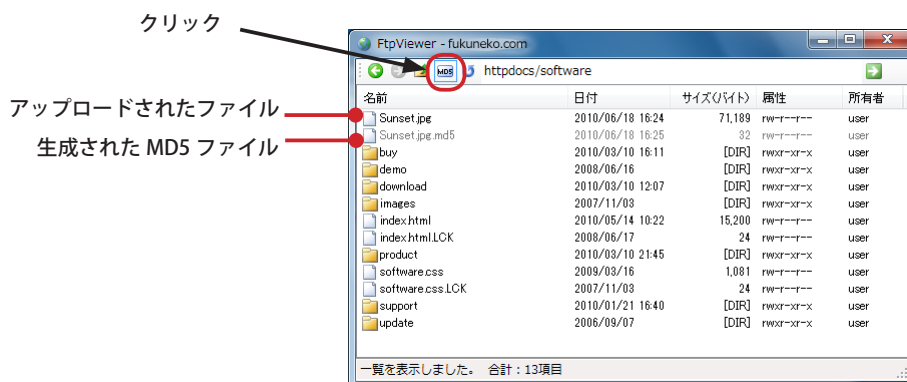
アップロードが完了すると、自動的に MD5 ファイルが FTP サーバーに作成されます。複数のファイルを同時にアップロードする場合、MD5 ファイルの生成は、1 つのファイルをアップロードする毎に行われます。

下に示す画面では、MD5 ファイルを表示しないようになっているため、アップロードされたファイルのみが一覧に表示されています。

【注意】 ファイル名に拡張子 ".md5" を持つファイルに対する MD5 ファイルは生成されません。



FtpViewer の「MD5 ファイル表示」ボタンをクリックすると、MD5 ファイルが生成されているのかどうかを確認できます。



※ 「MD5 ファイル表示」ボタンはトグル式ですので、もう一度クリックすると、MD5 ファイルが非表示になります。

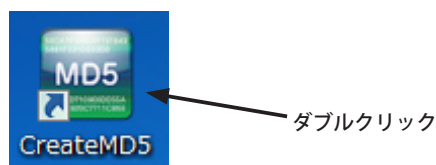
※ FtpViewer は、通常 ".md5" を拡張子を持つファイルをアップロード対象から外します。".md5" を拡張子を持つファイルをアップロードする場合は、「MD5 ファイル表示」ボタンが有効（押されている状態）でアップロードを行うと、".md5" ファイルが上書きされることがありますのでご注意ください。

CreateMD5 を使う

FilePort と共にインストールされる「CreateMD5」というアプリケーションを使用すると、簡単に MD5 ファイルを生成することができます。

【注意】CreateMD5 には FTP アップロードの機能はありません。MD5 ファイルを生成後、FtpViewer や他の FTP アップロードツールを使用して、FTP サーバーへアップロードする必要があります。

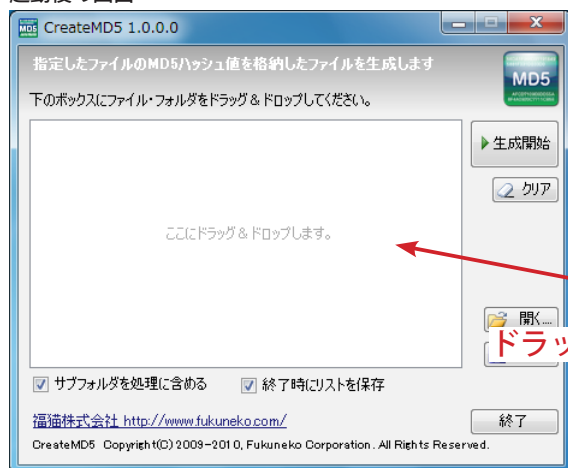
インストール時にデスクトップなどに作成される CreateMD5 のショートカットアイコンをダブルクリックして、CreateMD5 を起動します。



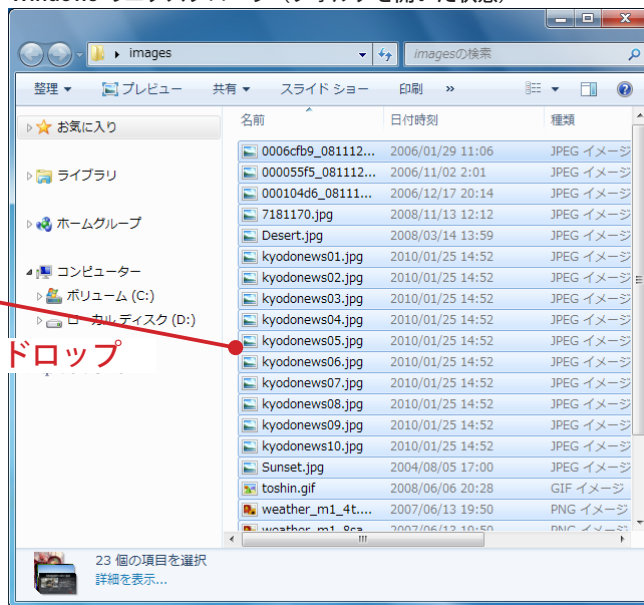
Windows のエクスプローラ（フォルダを開いた状態）を使って、MD5 ファイルを生成したいファイルを、CreateMD5 ヘドラッグ＆ドロップします。

【注意】ファイル名に拡張子".md5"を持つファイルは追加できません。またフォルダ指定の場合も処理対象外になります。

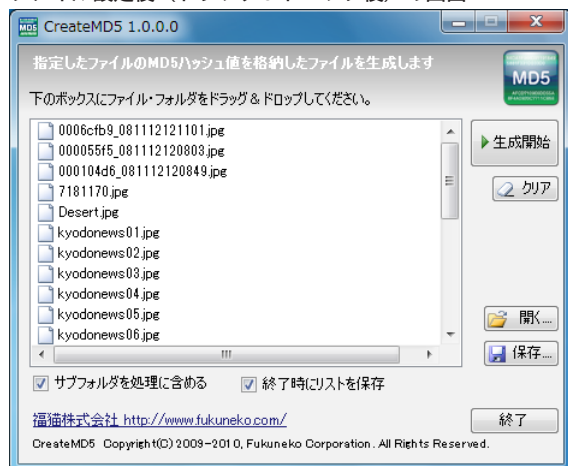
起動後の画面



Windows のエクスプローラ（フォルダを開いた状態）



ファイル設定後（ドラッグ＆ドロップ後）の画面



ドラッグ＆ドロップすると、ファイルがリストに追加されます。

ファイルをリストから取り除くときは、取り除くファイルを選択し、「delete」キーを押します。

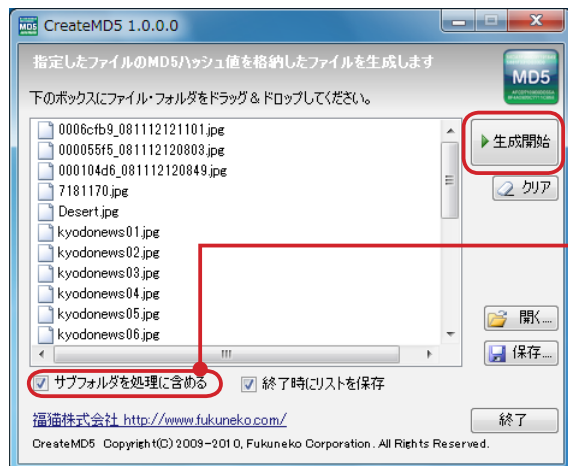
全てのファイルをリストから取り除くときは、「クリア」ボタンをクリックします。

※「開く」ボタンは保存済みのリストを開くときに使用します。
※「保存」ボタンは現在のリストを保存するときに使用します。

※「終了時にリストを保存」オプションにチェックが入っているときは、CreateMD5 を終了するときに、現在のリストを自動保存します。

CreateMD5 を使う

ファイルをリストに追加後、「開始」ボタンをクリックすると、MD5 ファイルの生成を開始します。MD5 ファイルは、指定したファイルと同じフォルダ内に、作成されます。

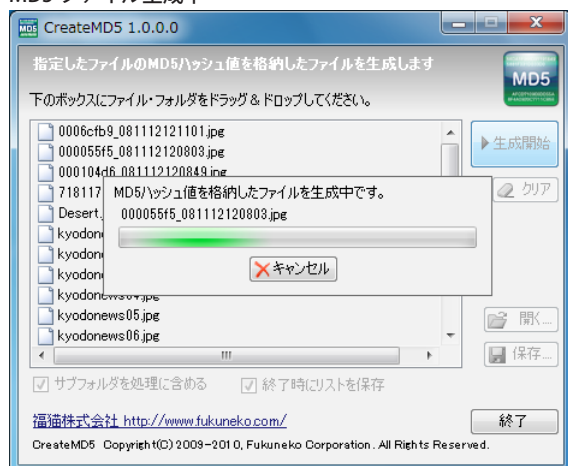


クリック

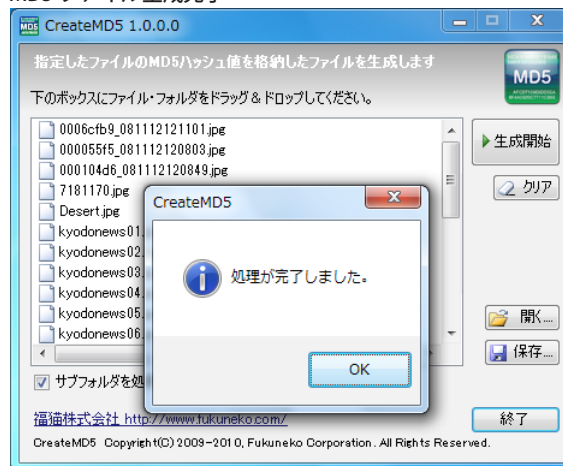
※「サブフォルダを処理に含める」は、リストにフォルダを指定したとき、フォルダの中のフォルダも処理対象にするかどうかのオプションです。(チェックが入っていると有効)
階層が深い場合は処理に時間がかかることがあります。



MD5 ファイル生成中

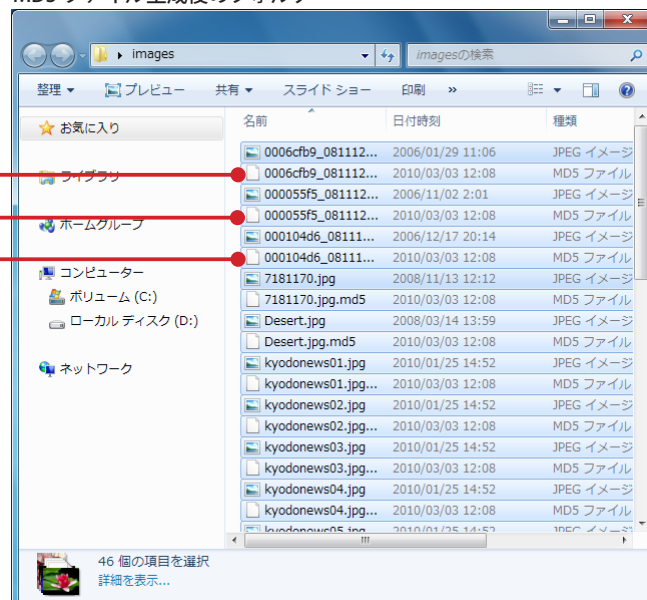


MD5 ファイル生成完了



MD5 ファイル生成後のフォルダ

生成された MD5 ファイル



PHP スクリプトで生成する

FTP サーバーで PHP などのスクリプト（またはバイナリーの実行ファイル）を実行できる環境であれば、容易に MD5 ファイルを生成することができます。

ここでは、PHP を使用した場合のスクリプト例を紹介いたします。

【重要】ここで紹介するスクリプトの動作について福猫株式会社および販売店は一切の保証をいたしません。

PHP スクリプト例

```
<?php
// ファイルの MD5 ハッシュ値を MD5 ファイルへ保存する

$dir = dir("/home/ftproot/"); // 処理するディレクトリの指定

echo "Path: " . $dir->path . "<br />\n";
while (false !== ($entry = $dir->read())) {

    $file = $dir->path . "/" . $entry;

    if (is_file($file)) {

        $extension = pathinfo($file, PATHINFO_EXTENSION);
        if (strcasecmp($extension, "md5") == 0) continue; // 拡張子 .md5 を持つファイルは処理しない

        $fp = fopen($file . ".md5", 'w'); // 現在のファイル名に拡張子 .md5 を付加したファイルへ書き込む

        if (flock($fp, LOCK_EX)) {

            $md5 = md5_file($file); // MD5 ハッシュ値の生成
            fwrite($fp, $md5);
            flock($fp, LOCK_UN);

            echo $entry . ":" . $md5 . "<br />\n";

        }

        fclose($fp);

    }

}
$dir->close();

?>
```

PHP でファイルの MD5 ハッシュ値を生成する関数は、"md5_file" です。詳しくは、PHP のマニュアルを参照してください。

スクリプト作成時に注意する点は、拡張子 ".md5" を持つファイルを処理から除外することです。除外しない場合は、2 回目以降に処理を行った後、".md5.md5" のように MD5 ファイルに対する MD5 ファイルが作成されてしまいます。

第 6 章 時刻指定の自動ダウンロード

第 6 章 時刻指定の自動ダウンロード

時刻指定の自動ダウンロードについて

FilePort は一定間隔（秒指定）の自動ダウンロード機能を有していますが、時刻を指定した自動ダウンロード機能は用意されていません。

時刻を指定した自動ダウンロードは、Windows のタスク スケジューラなどを利用することで実現できます。

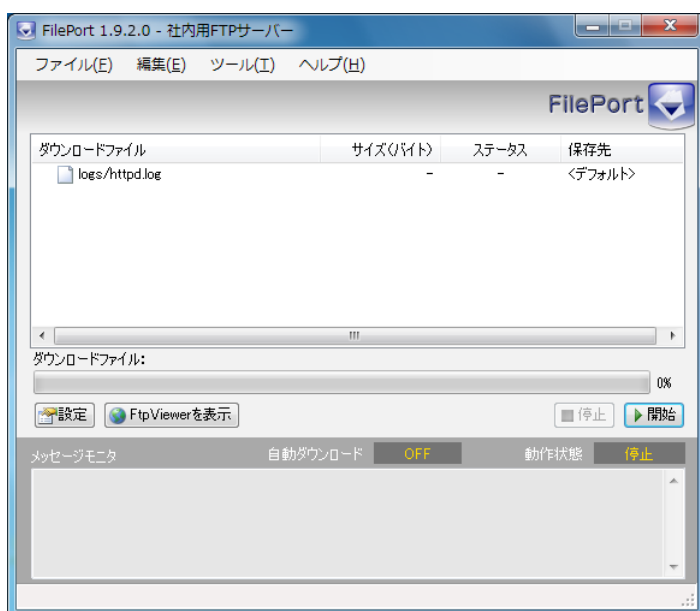
この章では、Windows のタスク スケジューラ（Windows XP ではタスク）を利用して自動ダウンロードを行う方法を説明いたします。

以降では、毎日 18:00 にサーバーに保存されているログファイルをダウンロードすることを例にとります。

FilePort の設定

Windows のタスク スケジューラに登録するために、FilePort を適切に構成する必要があります。サーバーへの接続設定や取得ファイルの設定などは設定済になっていることを前提にいたします。

下の画面では、「httpd.log」というファイルを取得するように設定済になっています。この設定は「社内用 FTP サーバー」という名称で作成してあります。



設定画面を開き、「基本設定」タブへ切り替えます。
オプションを次のように設定します。

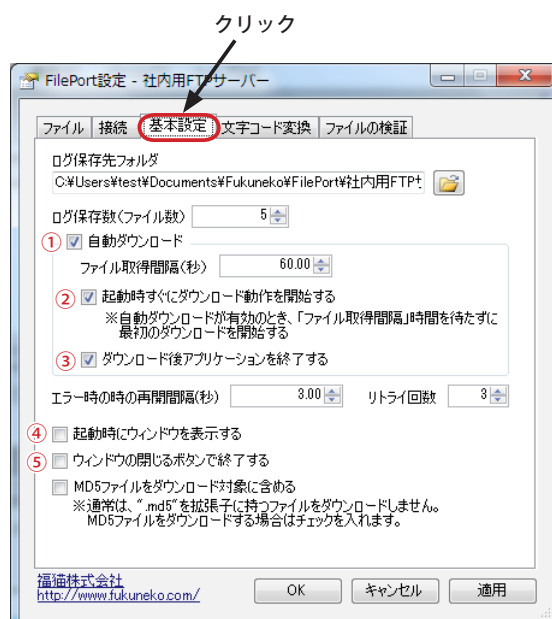
【必須】

- ① 自動ダウンロード 有効に
- ② 起動時すぐにダウンロード動作を開始する 有効に
- ③ ダウンロード後アプリケーションを終了する 有効に

【任意】

- ④ 起動時にウィンドウを表示する 無効に
- ⑤ ウィンドウの閉じるボタンで終了する 無効に

※ 「OK」 ボタンを押す前に次ページを読んでください。

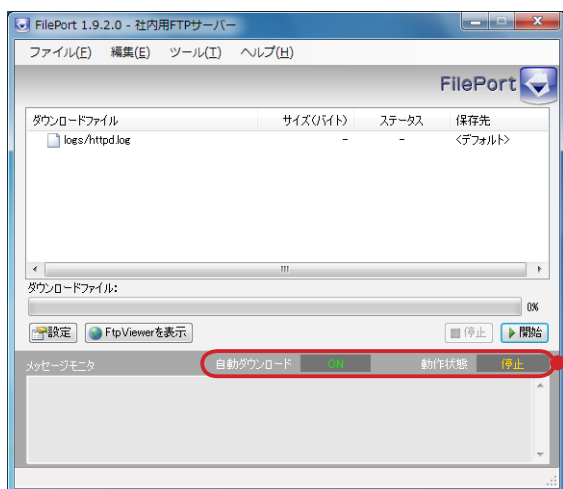


FilePort の設定

前ページのように設定し「OK」ボタンを押すと、ダウンロードが一度実行され、FilePort が終了します。この設定で FilePort を起動すると、ダウンロードが一度だけ実行され、終了するようになります。このような設定にした場合、何らかの設定変更を行おうとしても、すぐに FilePort が終了してしまい変更ができません。そのため、FilePort には一時的に自動ダウンロードや終了の設定を無効にする機能が用意されています。

設定を一時的に無効（有効）にする

一時的に自動ダウンロードや終了の設定を無効にするためには、キーボードの「ctrl」キーを押したまま FilePort を起動します。（「ctrl」キーを押したままショートカットアイコンをダブルクリックする）設定を一時的に無効にした場合、もし自動ダウンロードを有効にした設定であれば、下図のように「自動ダウンロード」が ON の表示で、「動作状態」が停止になっています。



一時的に変更になるのは、次の設定です。

- ・自動ダウンロード 無効
- ・起動時にウィンドウを表示する 有効

ショートカットのプロパティをコピー

Windows のタスク スケジューラに登録するためには、FilePort のインストール場所と、設定の名称が必要になります。実行させたい設定のショートカットを作成していない場合は、メインウィンドウのメニューから「ファイル」－「ショートカットの作成」を選んでショートカットを作成しておいてください。

【注意】 デフォルトの設定を使用しているときは、インストール時に作成されたショートカットアイコンから起動してる場合があります。インストール時に作成されるショートカットでは必要な項目をコピーできないため、あらためてショートカットを作成してください。

実行させたい設定のショートカットアイコンを右クリックしてコンテキストメニューを表示させます。次に、メニューから「プロパティ」を選びます。

ショートカットアイコンを右クリック

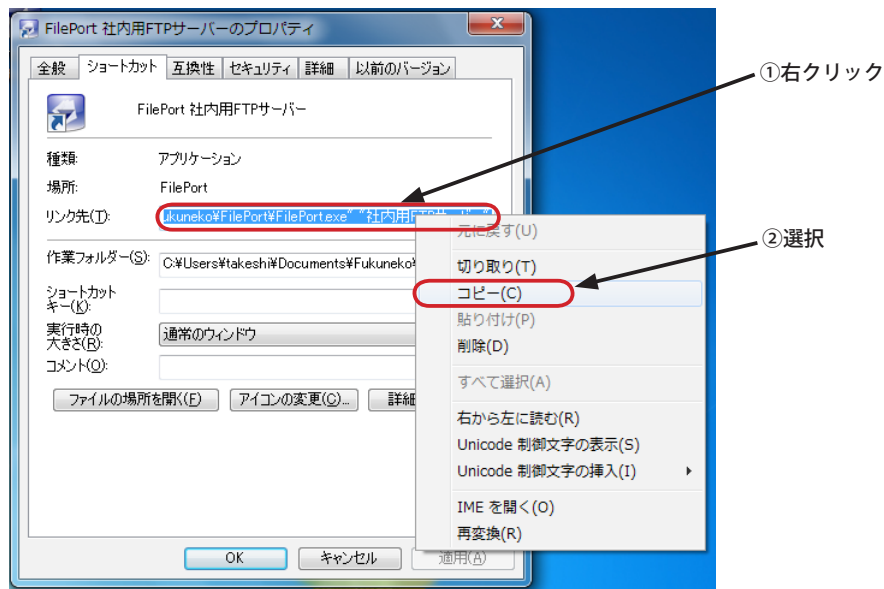


ショートカットのプロパティをコピー

ショートカットのプロパティ画面が表示されます。

リンク先の内容がすべて選択されている状態で、右クリックをしてコンテキストメニューを開きます。

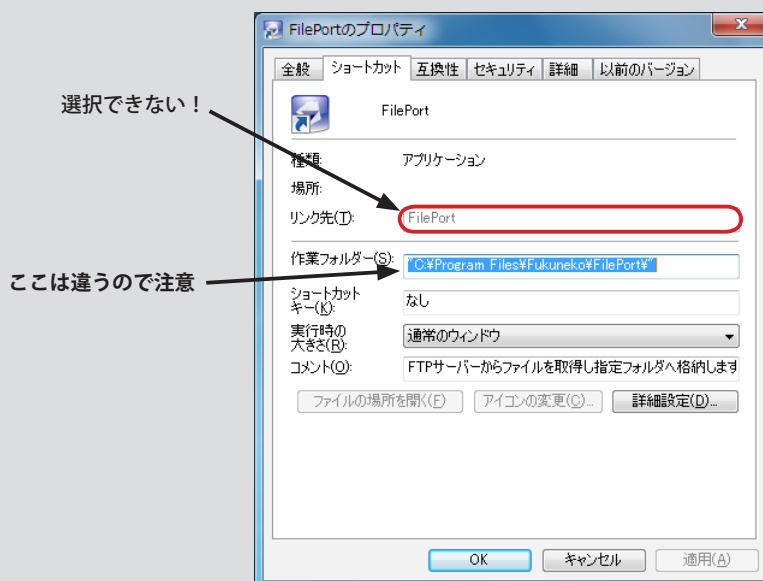
コンテキストメニューからコピーを選択します。リンク先が選択されていない状態の場合は、コンテキストメニューから「すべて選択」を選んで選択状態にしてからコピーします。(キーボードのショートカットキーで「ctrl」+「A」や「ctrl」+「C」を使用してすべて選択、コピーを行うこともできます。)



リンク先が選択できないとき

リンク先が選択できないのは、FilePort をインストールするときに作成されたショートカットアイコンのプロパティ画面を開いている場合です。

FilePort のメインウィンドウのメニューを使って新しいショートカットを作成後、プロパティ画面を開いてください。

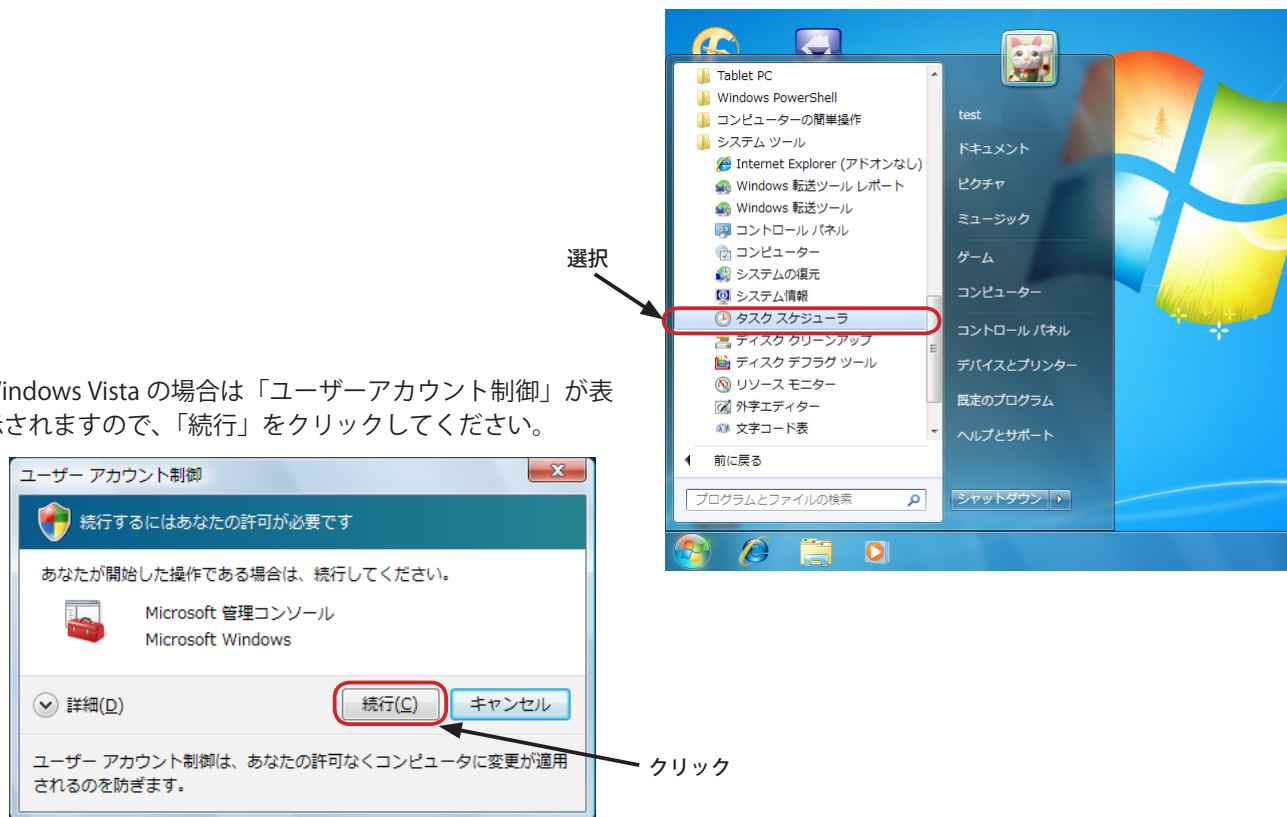


タスク スケジューラへの登録 (Windows Vista / 7)

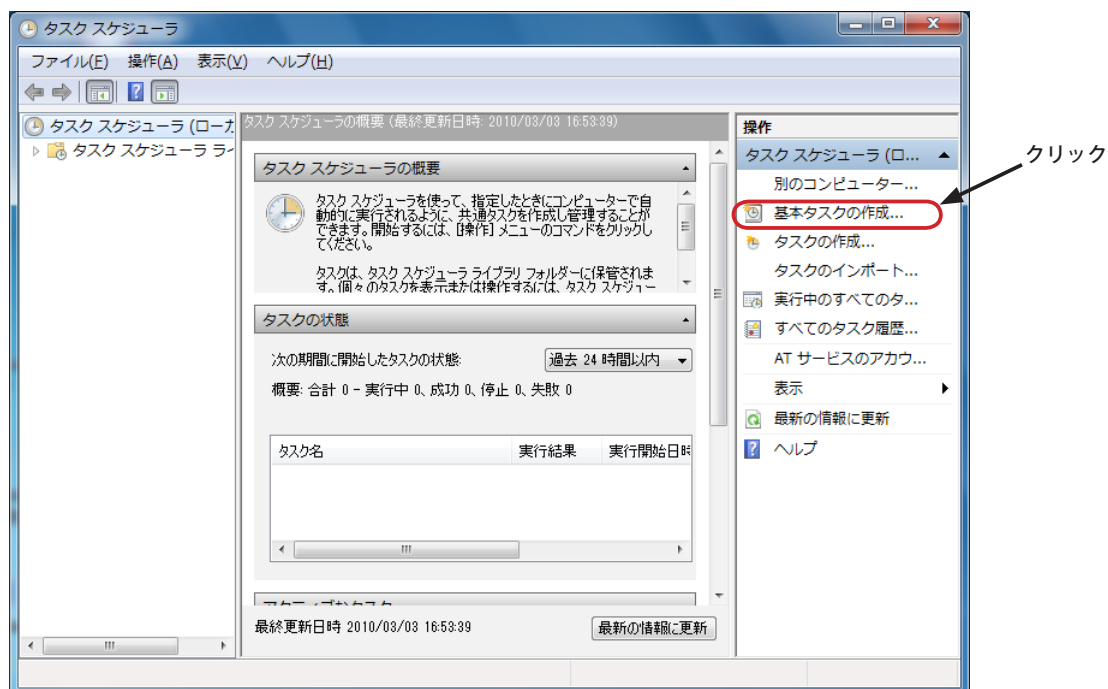
Windows Vista / 7 を使用している場合は、タスク スケジューラへ登録します。(Windows XP については後述) ショートカットのリンク先の内容が必要になるため、前ページまでの手順でコピーをしておいてください。

スタートボタンのメニューで、「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システム ツール」－「タスク スケジューラ」を選んで、タスク スケジューラを開きます。

Windows Vista の場合は「ユーザーアカウント制御」が表示されますので、「続行」をクリックしてください。



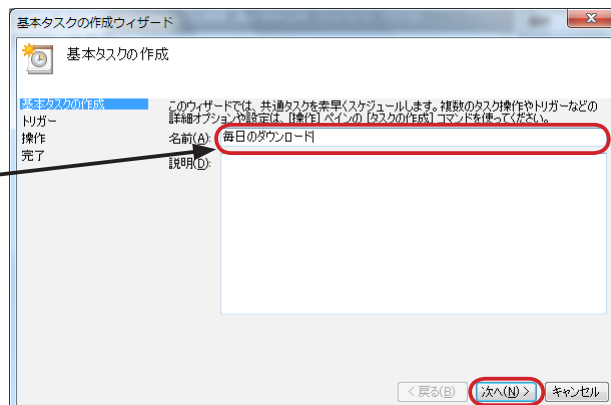
タスク スケジューラの画面が表示されたら、「基本タスクの作成」をクリックします。



タスク スケジューラへの登録 (Windows Vista / 7)

(続き) 基本タスクの作成ウィザードが開きます。
任意の名前を入力します。(ここでは「毎日のダウンロード」という名前を入力しています。)
入力後、「次へ」ボタンをクリックします。

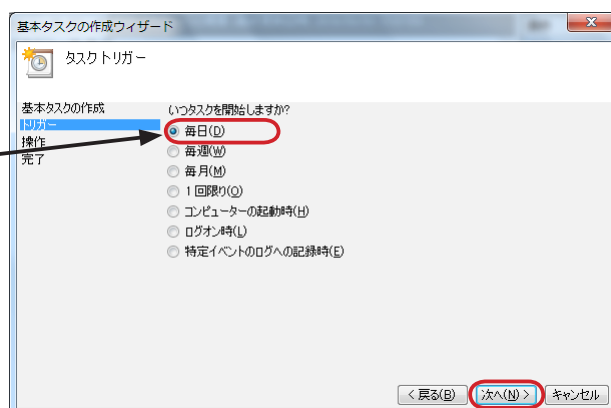
名前を入力



クリック

タスクのトリガーを選択します。今回は、毎日同時刻に実行を予定しているので、「毎日」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

選択



クリック

時間と間隔を設定します。今回は毎日 18:00 に実行させたいので、開始の時刻を「18:00:00」に設定し、間隔を 1 日に設定しています。
設定後、「次へ」ボタンをクリックします。

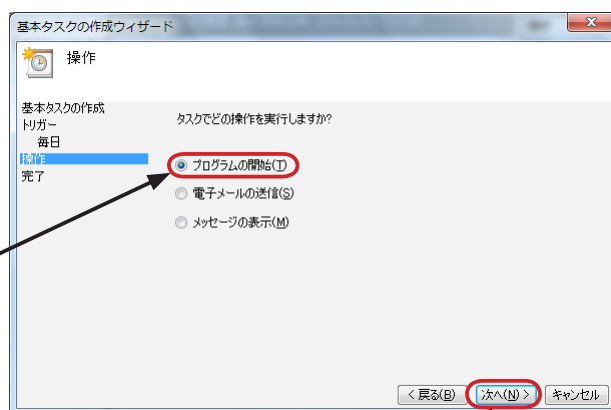
設定



クリック

操作の実行は、「プログラムの開始」を選び、「次へ」ボタンをクリックします。

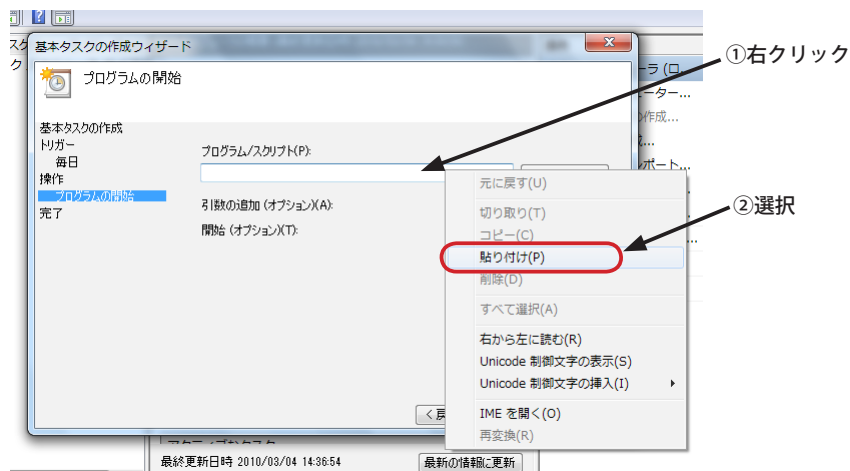
選択



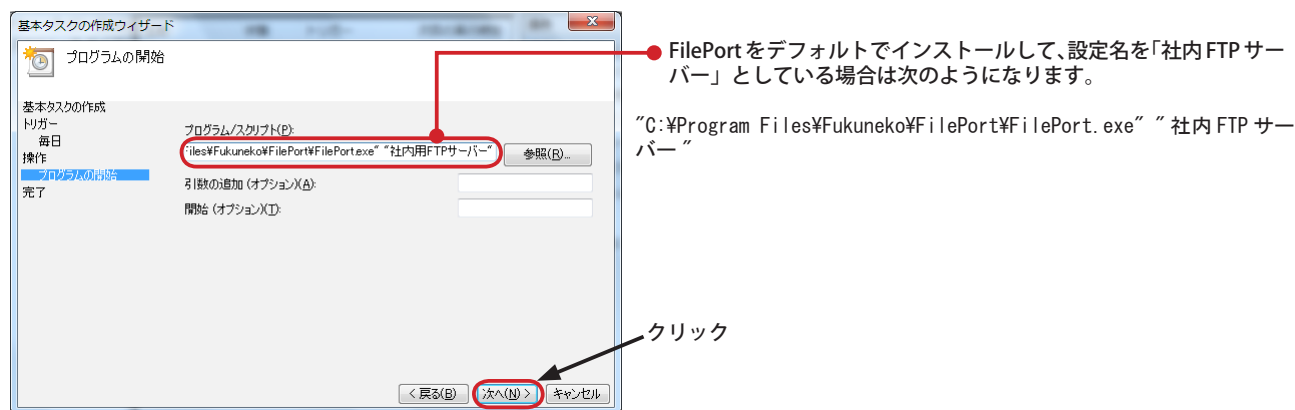
クリック

タスク スケジューラへの登録 (Windows Vista / 7)

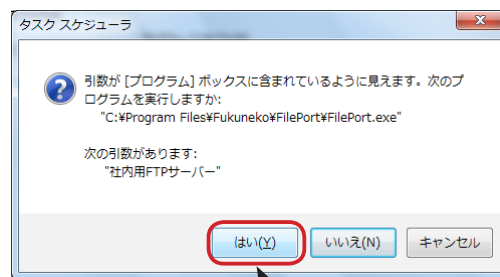
(続き) プログラムの開始画面が表示されたら、「プログラム / スクリプト」入力フィールドで、右クリックします。表示されるコンテキストメニューから「貼り付け」を選び、ショートカットのプロパティでコピーした内容を貼り付けます。(キーボードの「Ctrl」+「V」でも可)



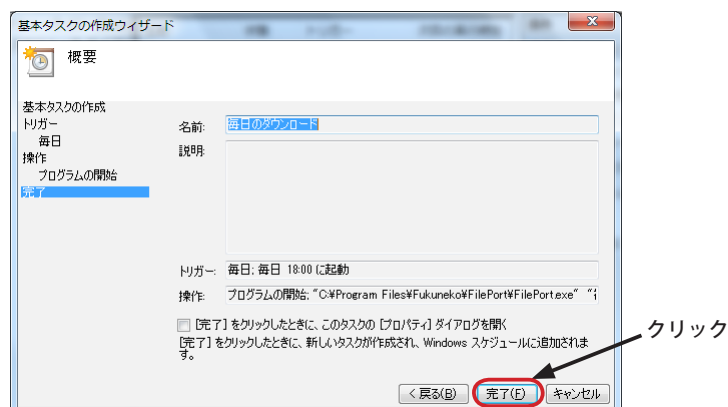
貼り付けを選択すると、「プログラム / スクリプト」入力フィールドに FilePort のプログラムパスと、FilePort の設定名が入力されます。確認後「次へ」ボタンをクリックします。



実行するプログラムと引数を確認するダイアログが表示されますので、確認後、「はい」ボタンをクリックします。

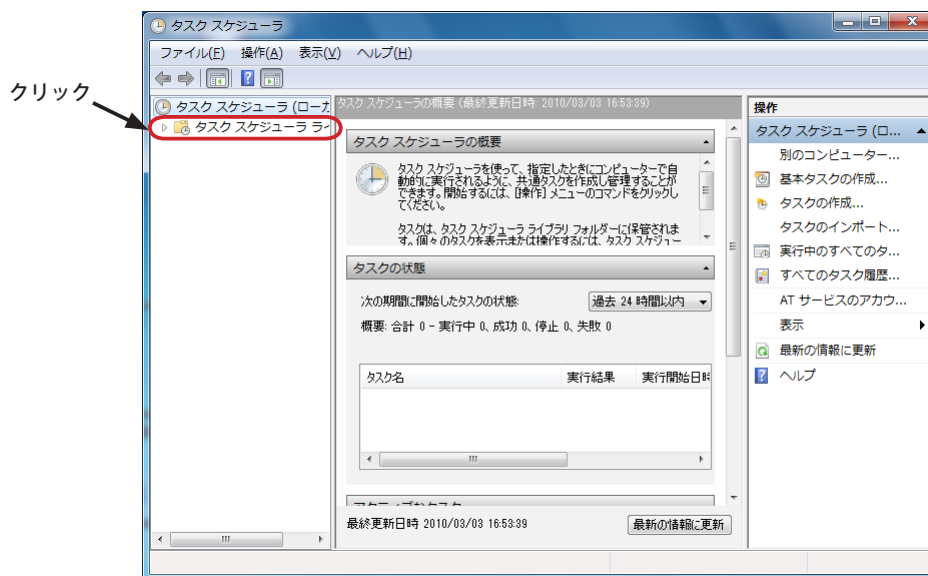


概要が表示されます。「完了」ボタンをクリックします。

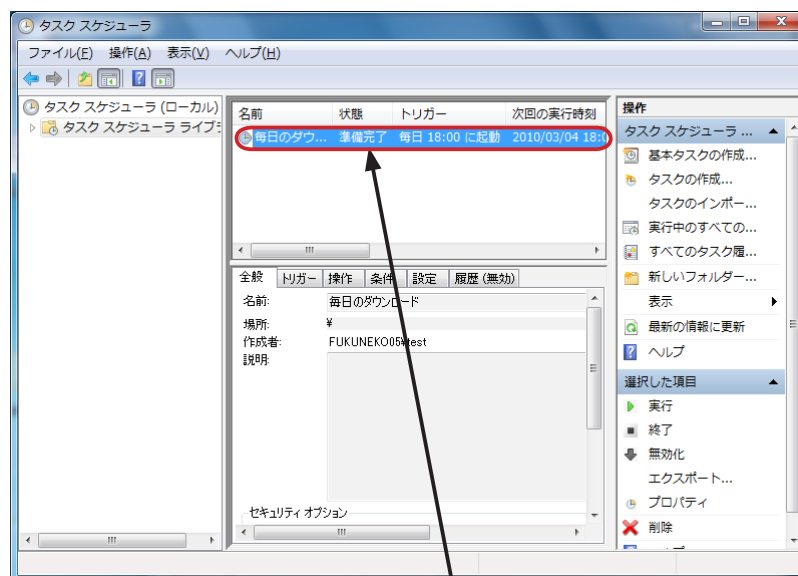


タスク スケジューラへの登録 (Windows Vista / 7)

(続き) 基本タスクの作成ウィザードが閉じると、タスクスケジューラの画面が操作できるようになります。作成したタスクを確認するためには、画面左側の「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。



画面中央上部に、登録されたタスクが表示されていれば OK です。現在 Windows を使用しているユーザーが Windows にログオンしているときだけスケジュールを動作させる場合は、以上で完了です。

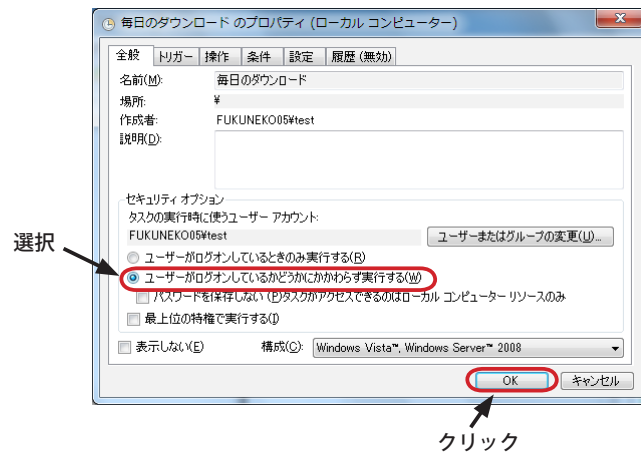


現在のユーザーがログオンしていない状態でもスケジュールを動作させたい場合は、タスクのプロパティを変更します。登録したタスクをダブルクリックするとタスクのプロパティ変更画面が表示されます。(次ページ画面)

ダブルクリック

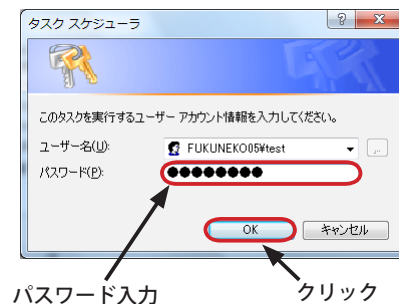
タスク スケジューラへの登録（Windows Vista / 7）

（続き）「ユーザーがログオンしているかどうかに関わらず実行する」ラジオボタンを選択（クリック）し、「OK」 ボタンをクリックします。



パスワード入力の画面が表示されます。ユーザーの欄は現在のユーザーが選択されています。現在のユーザーのパスワードを入力して、「OK」 ボタンをクリックしてください。画面が閉じれば設定完了です。

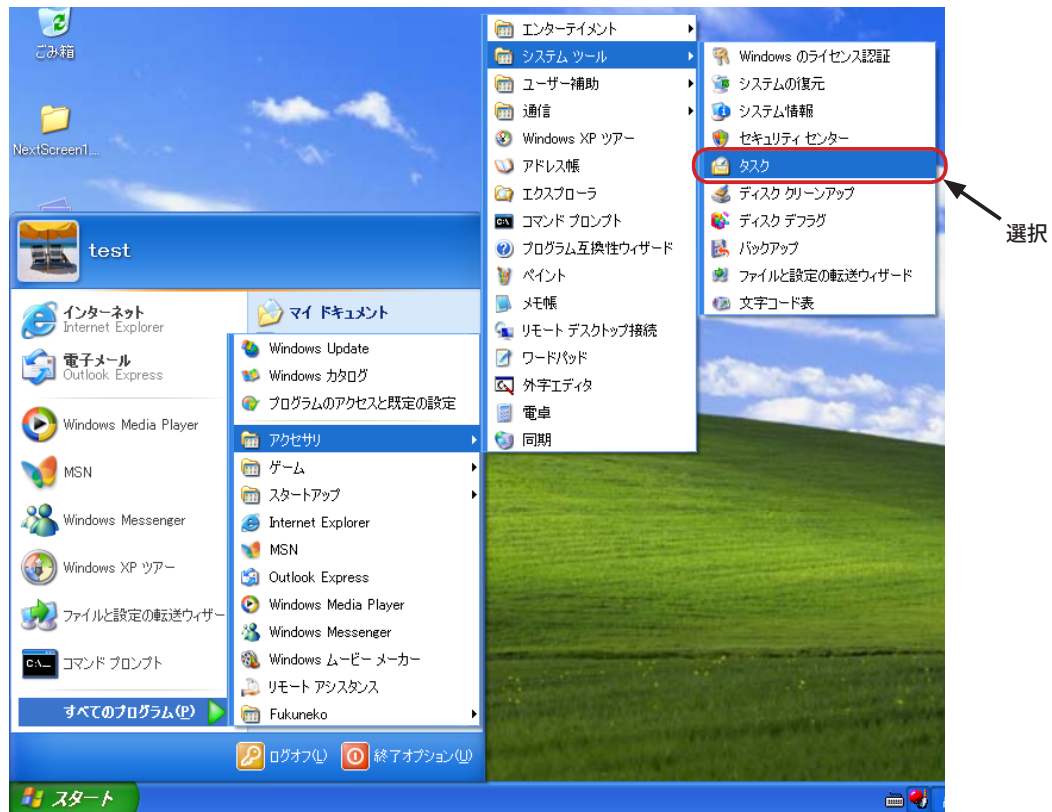
【重要】 現在のユーザー以外のユーザーを選択し、実行させた場合、FilePort は正常に動作しません。



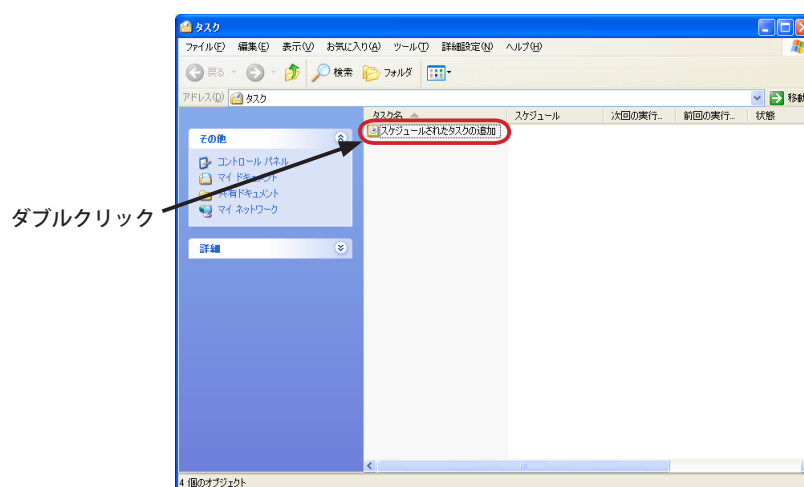
タスクへの登録 (Windows XP)

Windows XP を使用している場合は、タスクへ登録します。ショートカットのリンク先の内容が必要になるため、前ページまでの手順でコピーをしておいてください。

スタートボタンのメニューで、「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システム ツール」－「タスク」を選んで、タスクを開きます。



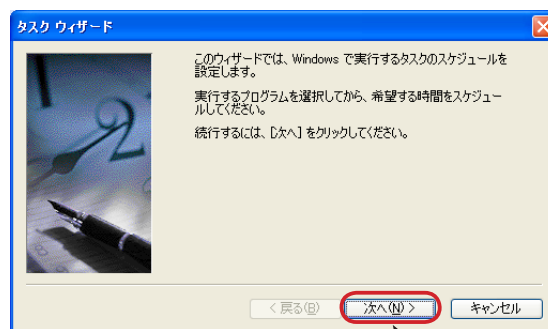
登録されているタスクの一覧が表示されます。(下画面ではなにも登録されていません。) 一覧の一番上にある、「スケジュールされたタスクの追加」をダブルクリックします。



タスクへの登録 (Windows XP)

(続き) タスク ウィザードが開きます。「次へ」 ボタンをクリックしてください。

※次の画面は表示されるまで時間がかかることがあります。しばらくお待ちください。



クリック

実行するプログラムを選択します。ここで選択したものは後で変更しますので、どのプログラムを選択してもかまいません。(ここでは FilePort を選択しています)
選択後「次へ」 ボタンをクリックします。

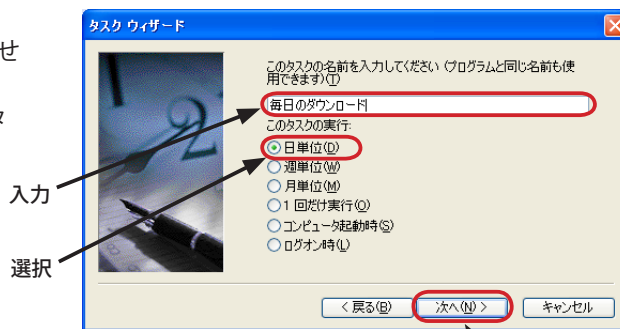


クリック

タスクの名前を入力します。ここでは、「毎日のダウンロード」という名前にしてあります。

次にタスクの実行単位を選択します。今回は毎日実行させるので「日単位」を選択しています。

名前の入力と実行単位の選択が完了したら、「次へ」 ボタンをクリックします。

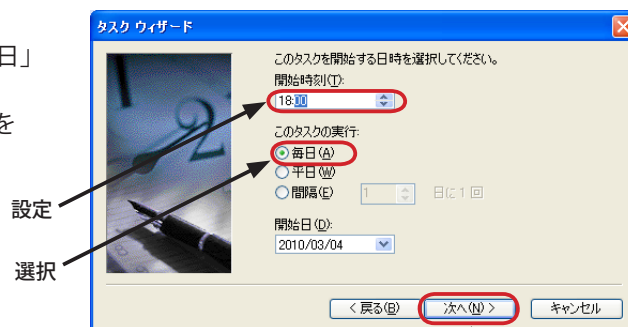


クリック

タスクの開始時刻を設定します。今回は 18:00 に実行させたいので、18:00 と設定しています。

次に実行間隔を選択します。毎日実行させたいので「毎日」を選択しています。

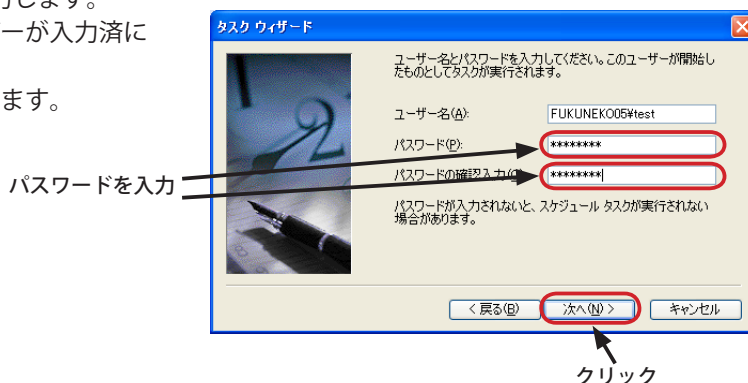
時刻の設定と間隔の選択が完了したら、「次へ」 ボタンをクリックします。



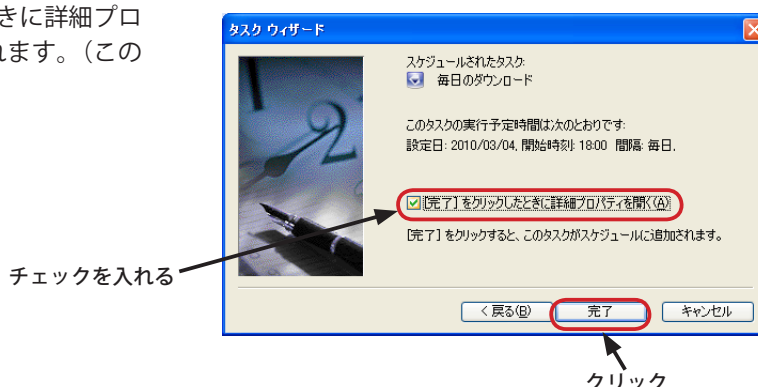
クリック

タスクへの登録 (Windows XP)

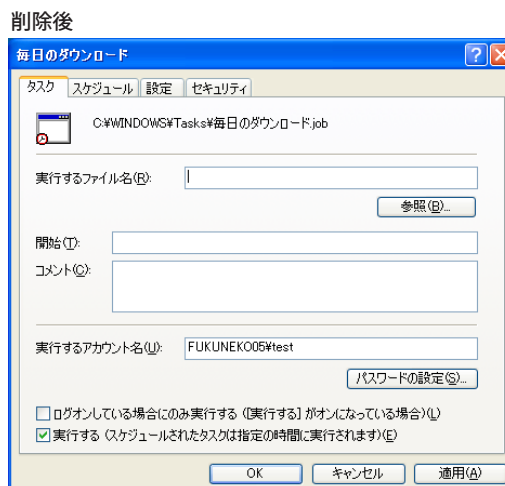
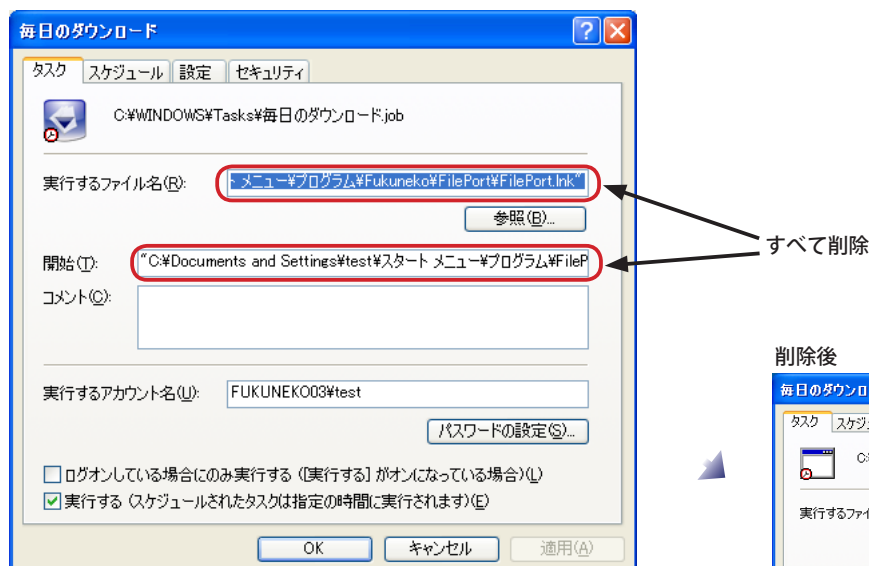
(続き) タスクを実行するユーザー情報を入力します。
 ユーザー名は、現在ログオンしているユーザーが入力済になっているのでそのままにしておきます。
 パスワードを入力して「次へ」をクリックします。



確認画面では、「完了」をクリックしたときに詳細プロパティを開くオプションにチェックを入れます。(この後にプロパティ画面で変更をかけます)
 「完了」ボタンをクリックします。



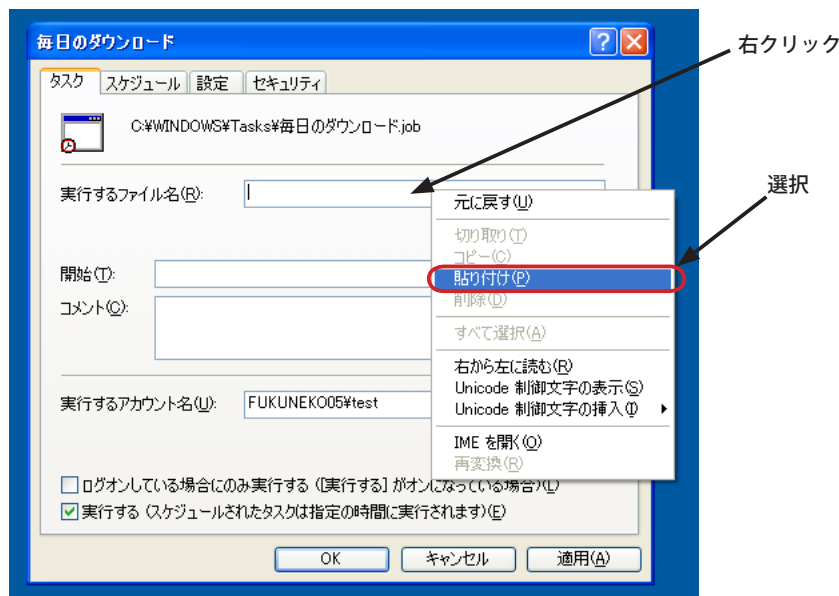
タスク ウィザードが終了し、追加したタスクのプロパティが表示されます。
 「実行するファイル名」に入力されている値と、「開始」に入力されている値をすべて削除します。(次の手順で入力します。)



タスクへの登録 (Windows XP)

(続き)「実行するファイル名」の入力フィールドで右クリックし、表示されるコンテキストメニューから「貼り付け」を選びます。(キーボードで「Ctrl」+「V」を押しても OK です。)

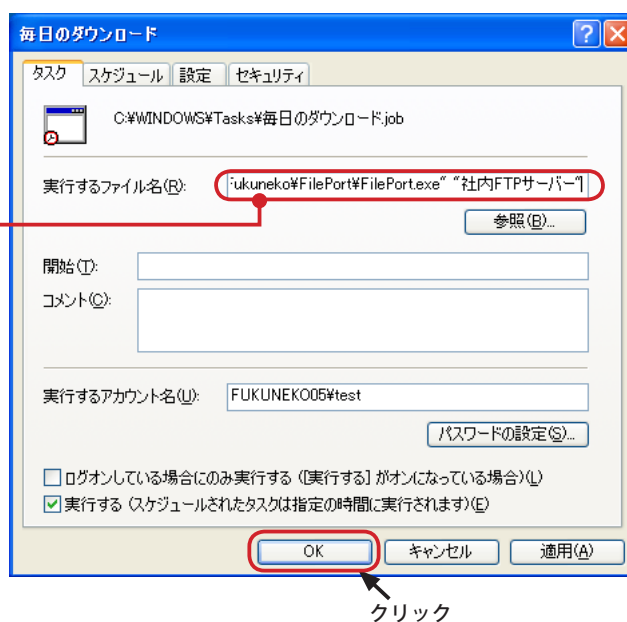
※「貼り付け」が有効になっていない場合は、FilePort のショートカットのプロパティで値がコピーできていません。FilePort のショートカットのプロパティの値をもう一度コピーしてください。



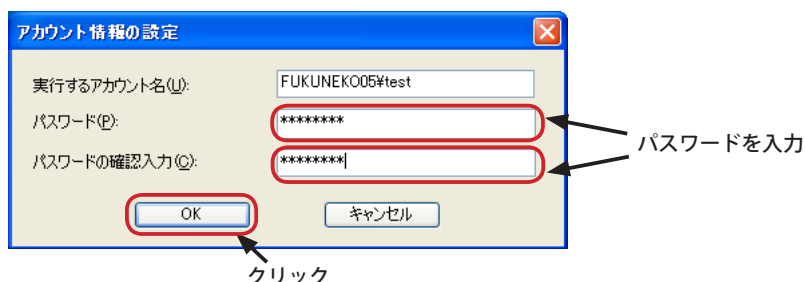
「実行するファイル名」の入力フィールドに FilePort のプログラムパスと、FilePort の設定名が入力されます。入力を確認したら「OK」ボタンをクリックします。

FilePort をデフォルトでインストールして、設定名を「社内 FTP サーバー」としている場合は次のようになります。

“C:\Program Files\Fukuneko\FilePort\FilePort.exe” “社内 FTP サーバー”

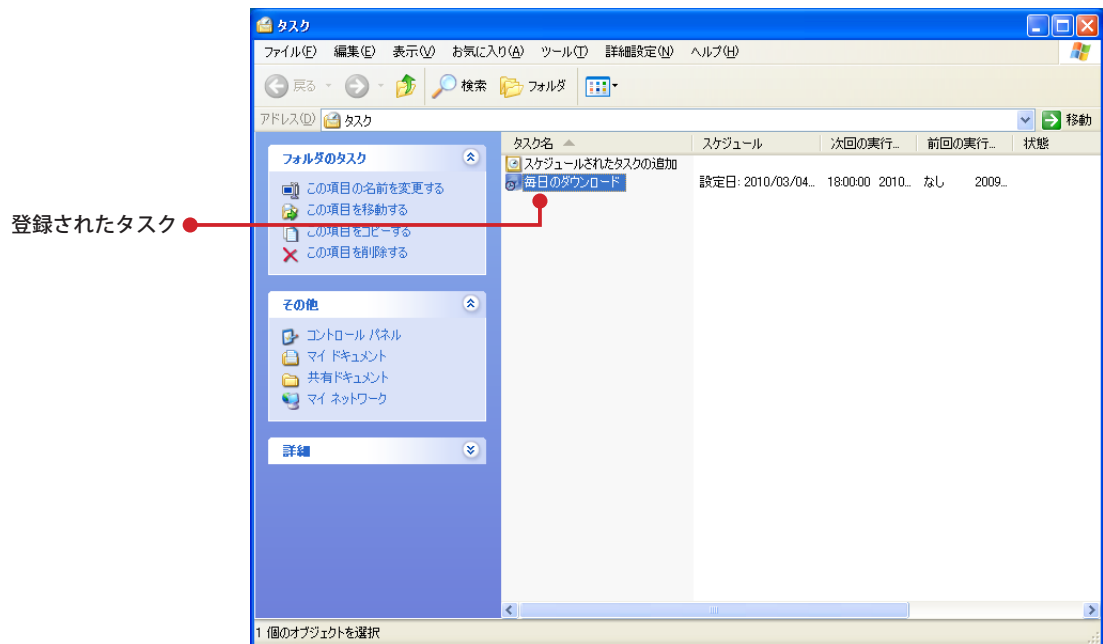


アカウント情報の設定画面が表示されます。「実行するアカウント名」はそのまましておきます。現在ログオンしているユーザーのパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。



タスクへの登録 (Windows XP)

(続き) タスクの一覧画面で、新しいタスクが登録されたことが確認できます。タスクの削除は、「delete」キーで行えます。



第 7 章 Windows の設定

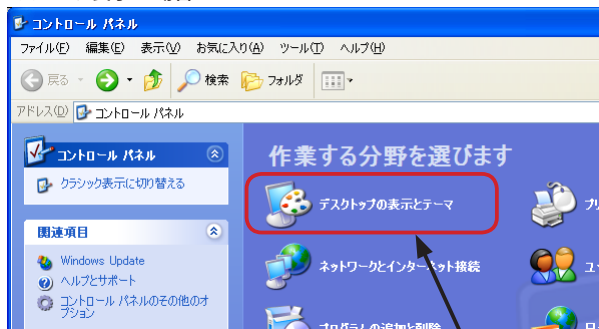
拡張子が見えるようにする

Windows の初期設定では、ファイルの種類を表す拡張子が見えないようになっています。NextScreen を利用するにあたって、ファイルの拡張子が見えるように Windows を設定しておくことを推奨します。

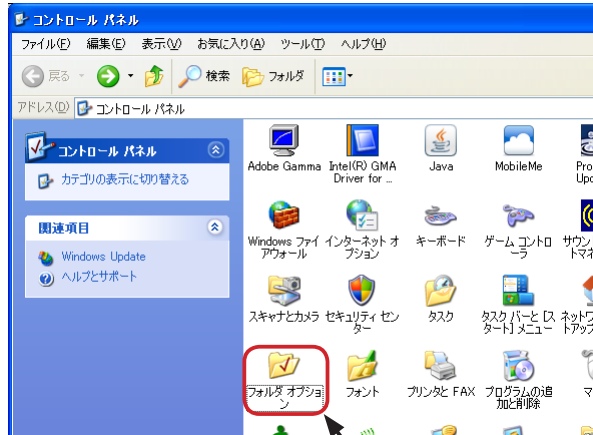
Windows XP の場合

- (1) 「コントロール パネル」を開き、(カテゴリ表示の場合は「デスクトップの表示とテーマ」をクリックしてから)「フォルダオプション」をクリック (ダブルクリック) します。

カテゴリ表示の場合

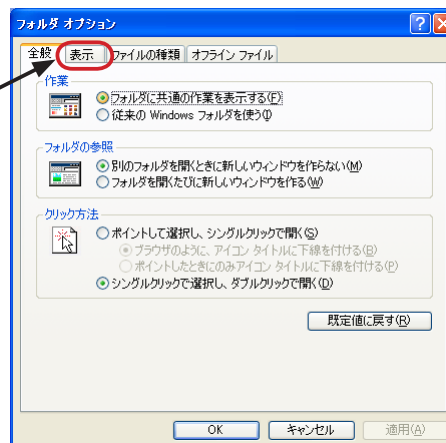


クラシック表示の場合



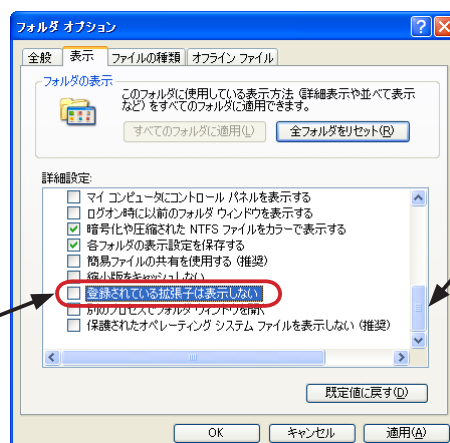
- (2) 「フォルダオプション」タブ「表示」をクリックします。

クリック



- (3) 「詳細設定」を一番下までスクロールさせ、「登録されている拡張子は表示しない」のチェックをはずします。最後に OK ボタンをクリックして完了です。

チェックをはずす



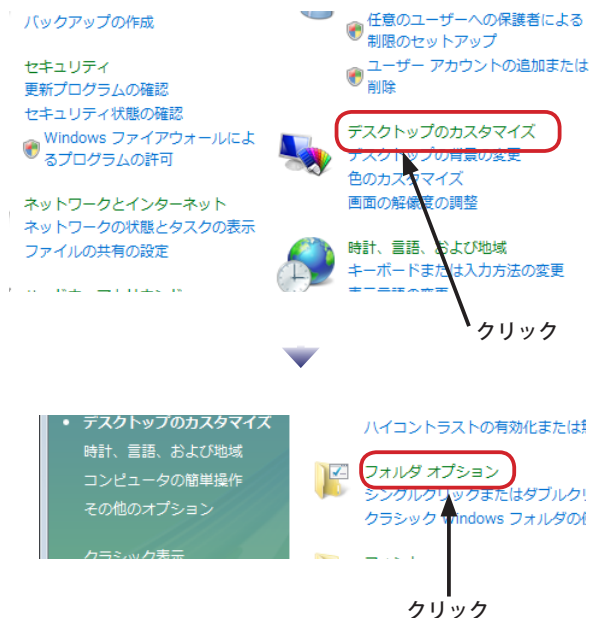
一番下へスクロール

拡張子が見えるようにする

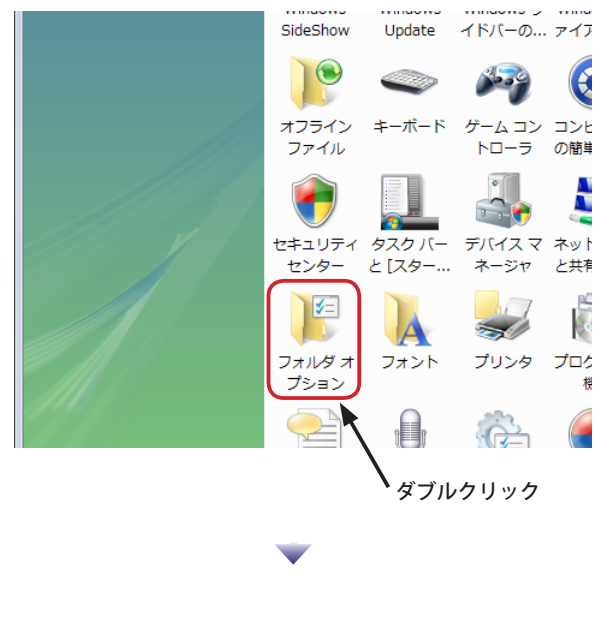
Windows Vista / 7 の場合

- (1) 「コントロール パネル」を開き、(コントロールパネルホームからは「デスクトップのカスタマイズ」をクリックしてから)「フォルダオプション」をクリック (ダブルクリック) します。

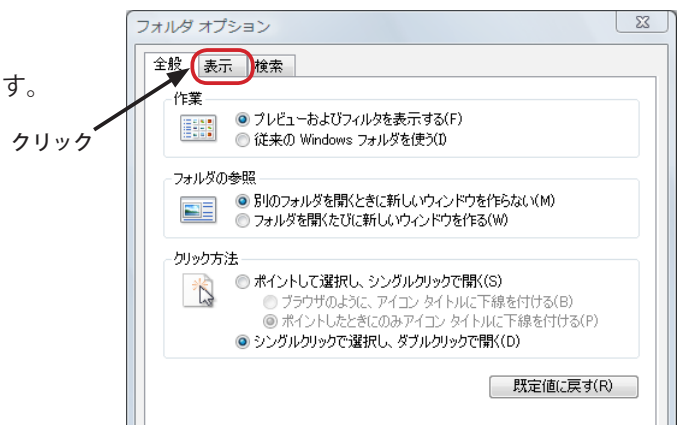
コントロール パネル ホームの場合



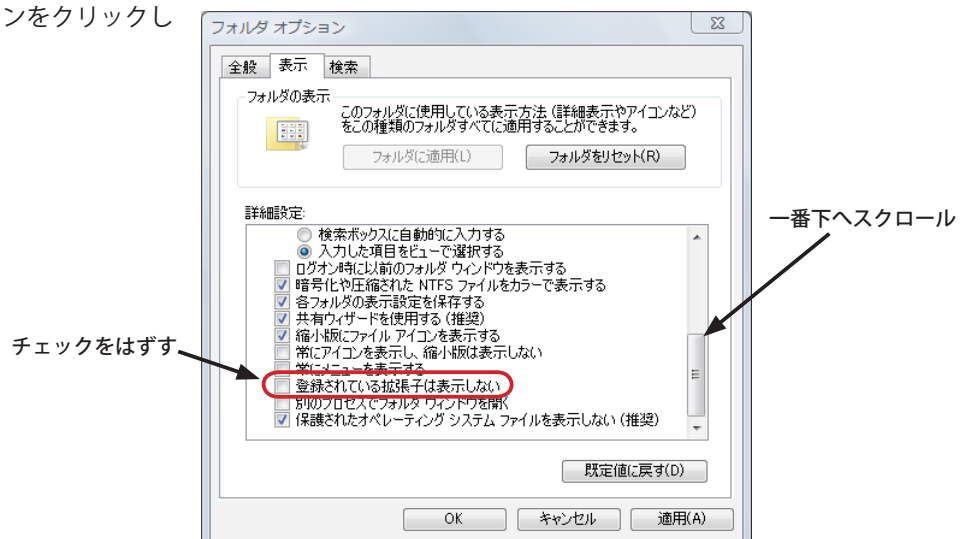
クラシック表示の場合



- (2) 「フォルダオプション」タブ「表示」をクリックします。



- (3) 「詳細設定」を一番下までスクロールさせ、「登録されている拡張子は表示しない」のチェックをはずします。最後に OK ボタンをクリックして完了です。





発行元： 福猫株式会社